

**“新しいチーム医療体制確立のための  
メディカルスタッフの現状と連携に関する  
包括的調査研究”に関するアンケート**

日本体外循環技術医学会会員へのアンケート調査(インターネット)

回答期間:2008年9月1～15日

アンケート回答数 273

平成20年度厚生労働科学研究  
“新しいチーム医療体制確立のためのメディカルスタッフの  
現状と連携に関する包括的調査研究”研究班

2008/9/24 初版

2008/10/9 追加・修正版

# 目次

1. 回答者の所属施設について -----	1ページ
1-1 病院の種類	
1-2 病院の地域	
1-3 病床数	
1-4A 体外循環手術数(年間)	
1-4B 体外循環手術数(年間)と病床数	
2. 回答者について-----	2ページ
2-1 回答者の年齢	
2-2 回答者の性別	
2-3 臨床工学技士免許取得後の年数	
2-4 体外循環の経験年数	
2-5 体外循環技術認定士の取得	
2-6 体外循環技術認定士取得後の年数	
2-7 回答者の職位	
2-8 平均して週に何日くらい体外循環の仕事に従事しているか	
2-9 体外循環症例の手術がない日の担当業務	
3. 臨床工学技士や体外循環技術者の現在の需給関係について-----	5ページ
3-A 臨床工学技士	
3-B 体外循環技術者	
4. 裁量権拡大について-----	6ページ
4-A 処遇との関係について -----	6ページ
4-B 業務の拡大や裁量権の拡大と、現在の皆様の就労環境の関係について-----	7ページ
4-C 責任について-----	8ページ
4-D 教育期間などについて-----	8ページ
4-E 将来的な事項として、学位について-----	9ページ
4-F 学位が必要と回答された方の理由-----	9ページ
4-G 個々の医療行為について-----	10ページ
4-H 米国のPAやNPについて-----	12ページ

## 目次

追加集計(層別化集計) 次の条件で層別化

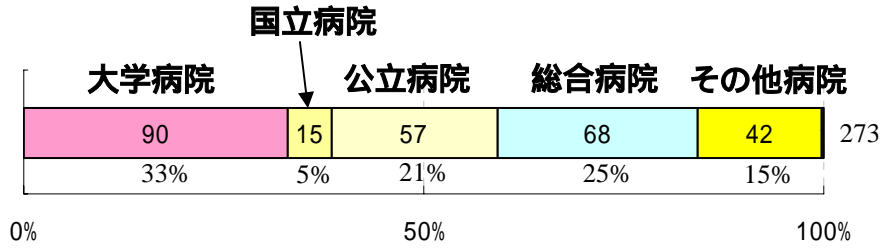
- (A)臨床工学技士免許取得後10年以下/10年超
- (B)管理職/非管理職
- (C)週あたり体外循環従事3例未満/3例以上

3. 臨床工学技士や体外循環技術者の現在の需給関係について-----	13ページ
3-A 臨床工学技士-----	13ページ
3-B 体外循環技術者-----	15ページ
4. 裁量権拡大について-----	17ページ
4-A 処遇との関係について -----	17ページ
4-B 業務の拡大や裁量権の拡大と、現在の皆様の就労環境の関係について-----	18ページ
4-C 責任について-----	19ページ
4-D 教育期間などについて-----	20ページ
4-E 将来的な事項として、学位について-----	22ページ
4-F 学位が必要と回答された方の理由-----	23ページ
4-G 個々の医療行為について-----	24ページ
4-H 米国のPAやNPについて-----	30ページ

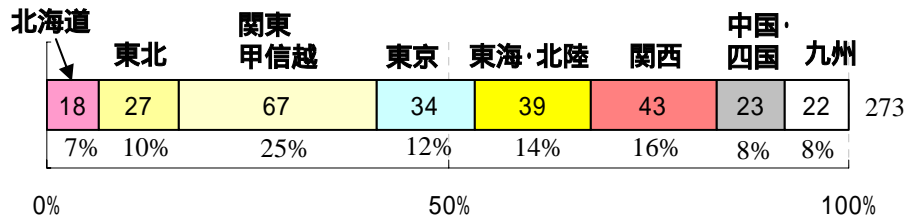
アンケート回答数： 273 (インターネット 期間: 2008年9月1～15日)

1. 回答者の所属施設について

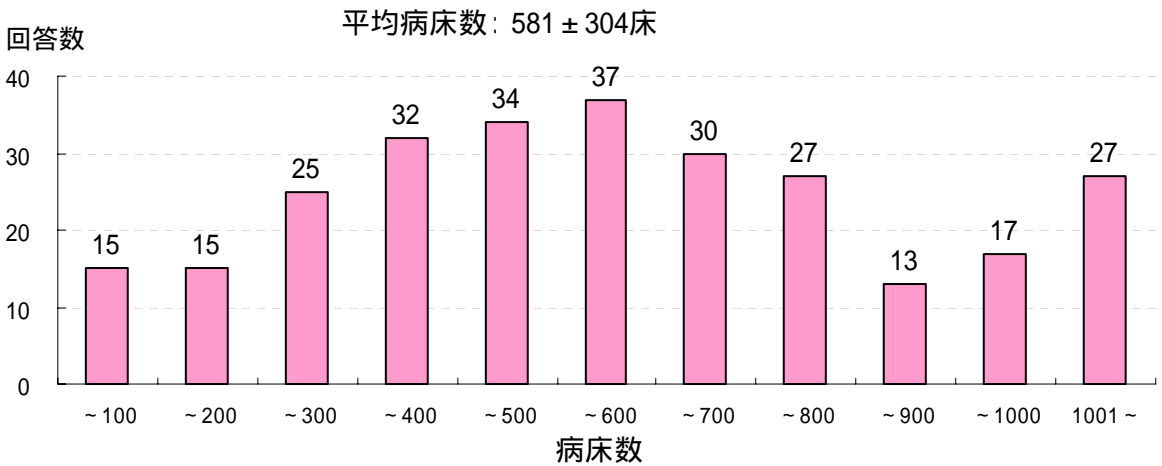
1-1 病院の種類



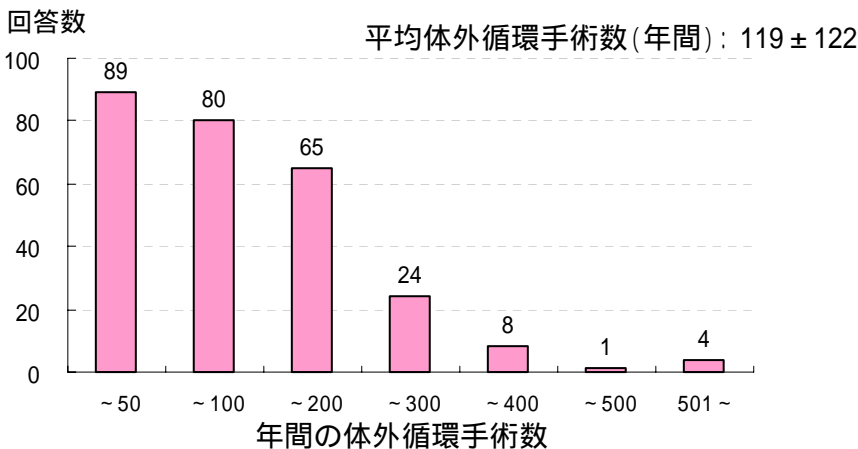
1-2 病院の地域



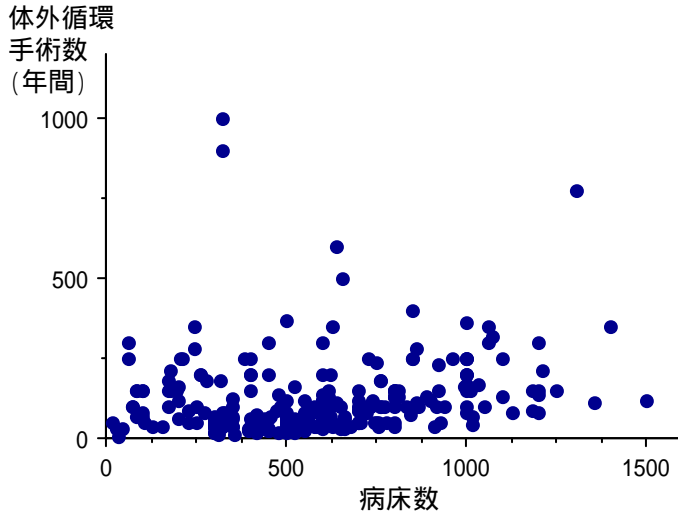
1-3 病床数



1-4A 体外循環手術数(年間)

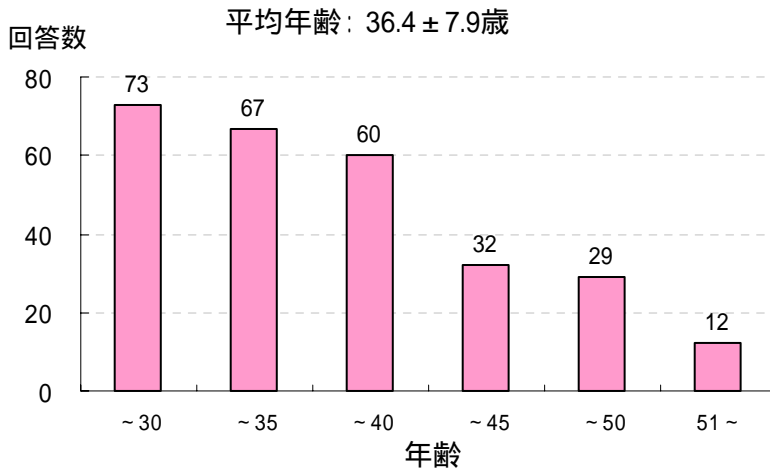


### 1-4B 体外循環手術数(年間)と病床数

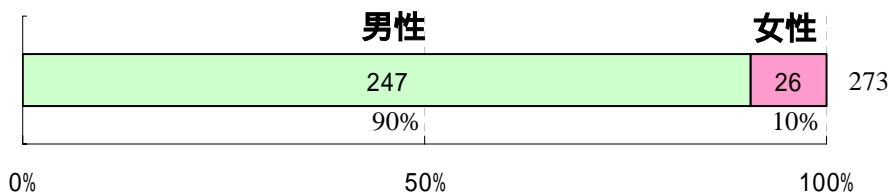


## 2. 回答者について

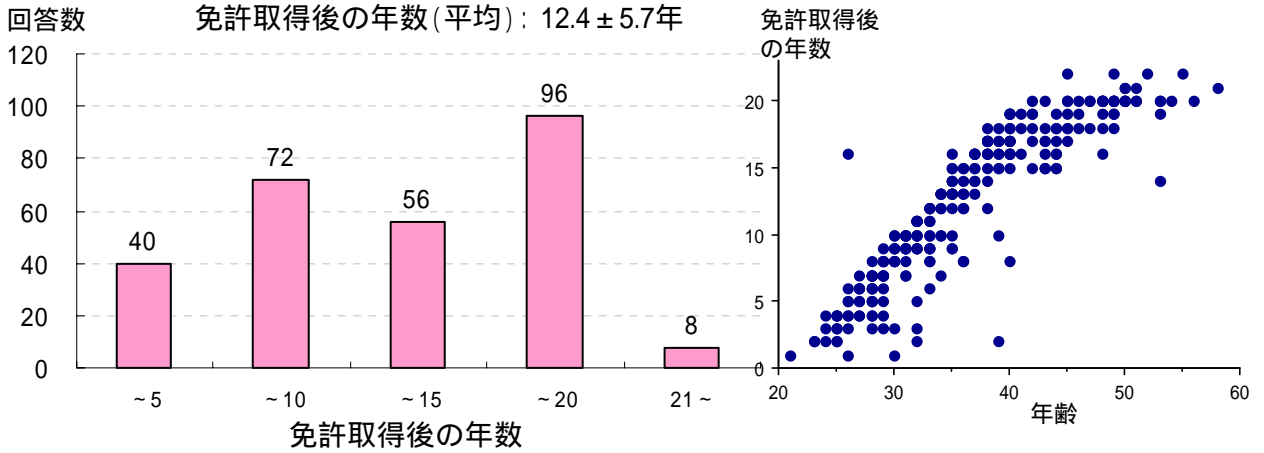
### 2-1 回答者の年齢



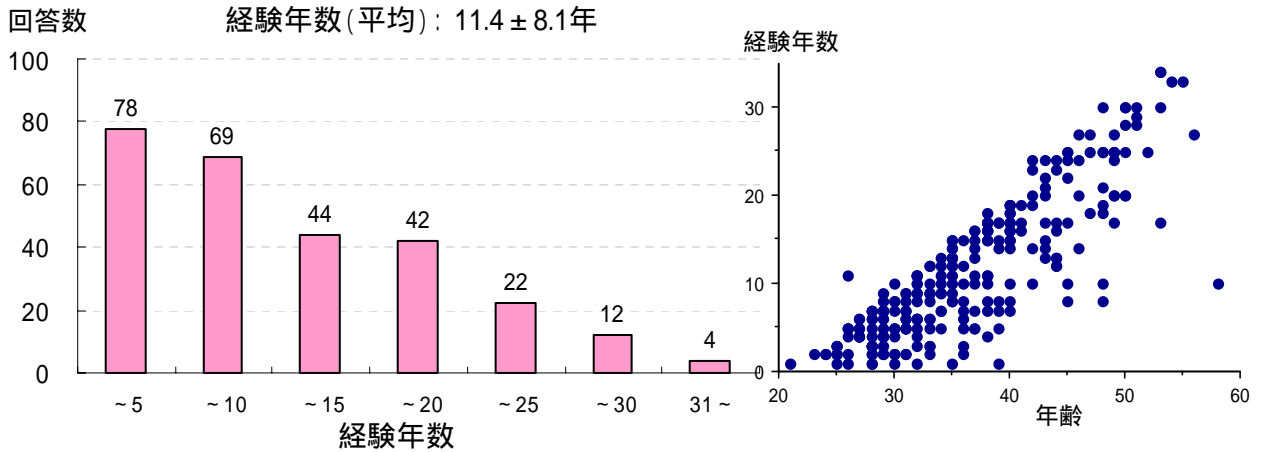
### 2-2 回答者の性別



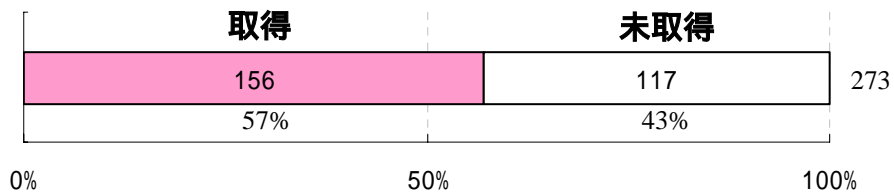
### 2-3 臨床工学技士免許取得後の年数



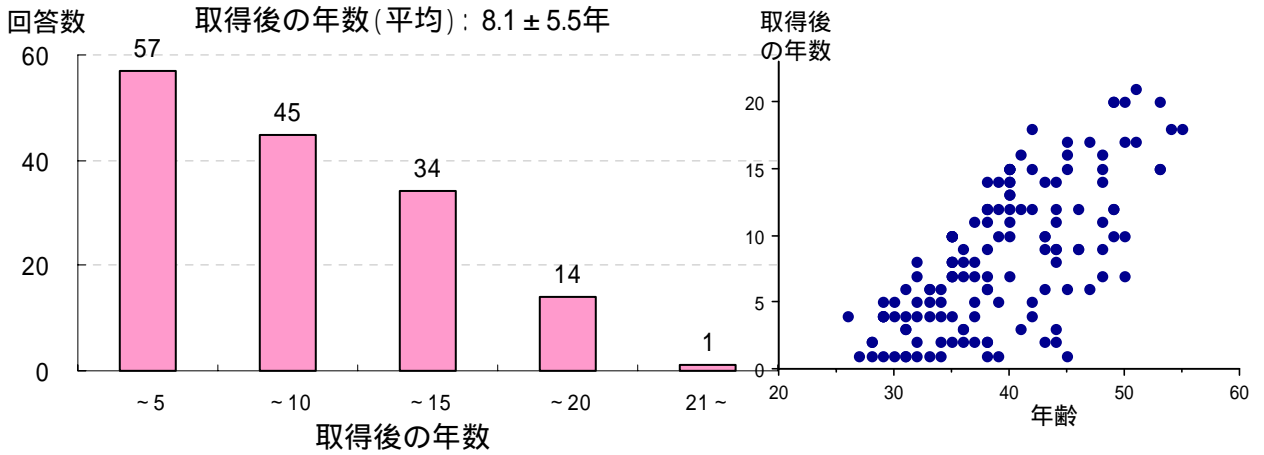
### 2-4 体外循環の経験年数



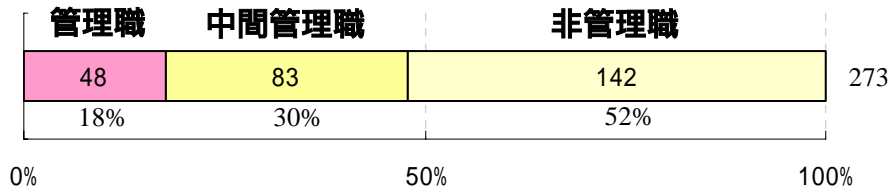
### 2-5 体外循環技術認定士の取得



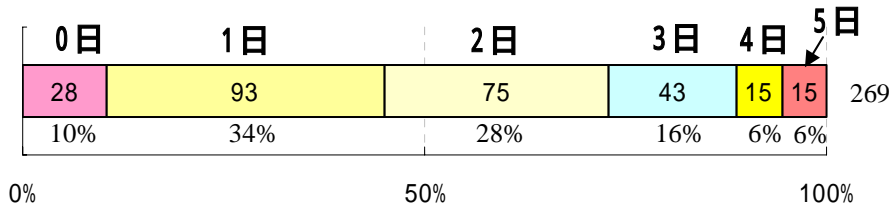
### 2-6 体外循環技術認定士取得後の年数



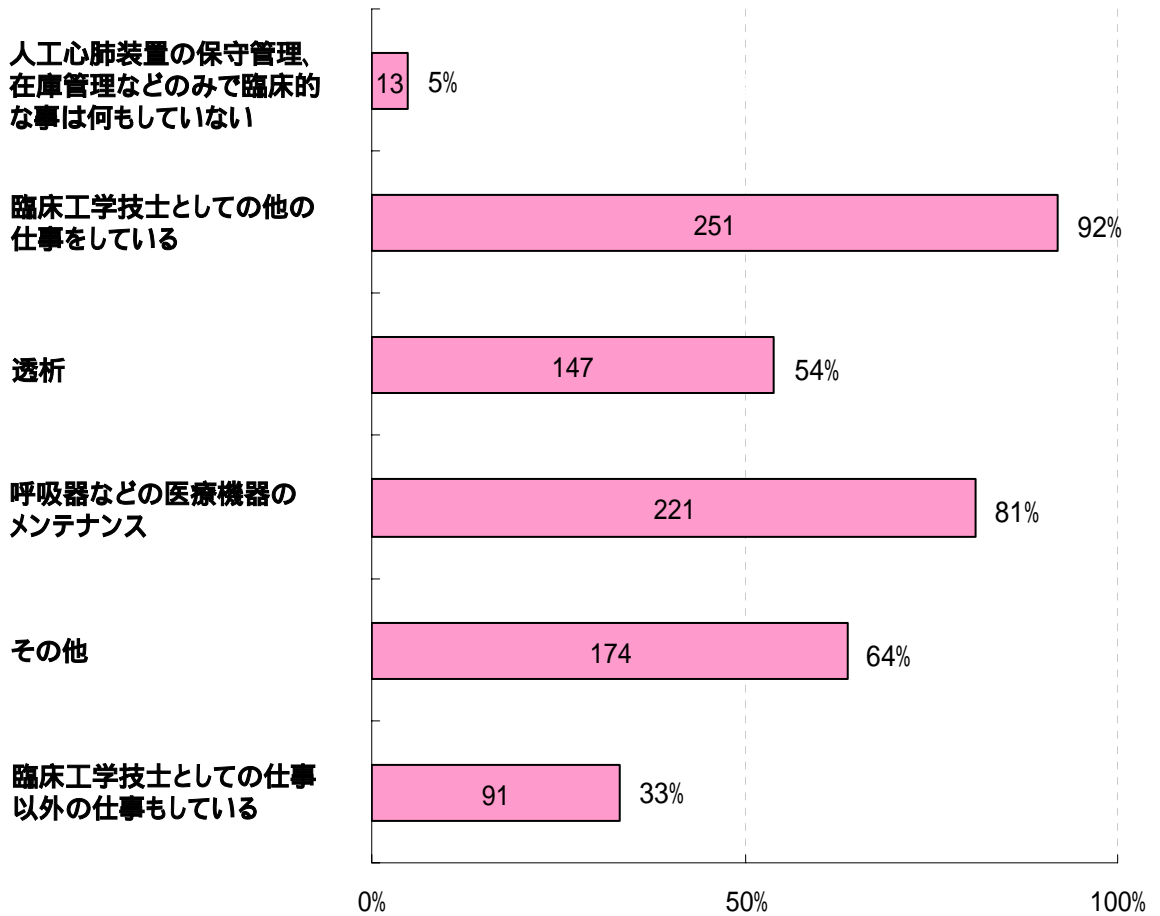
### 2-7 回答者の職位



### 2-8 平均して週に何日くらい体外循環の仕事に従事しているか



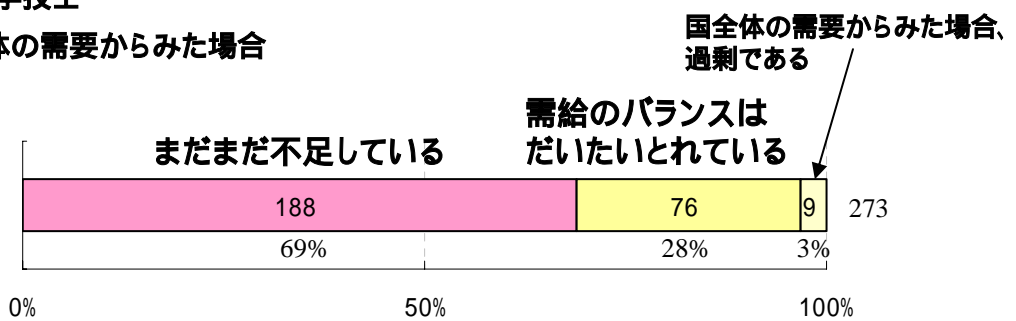
2-9 体外循環症例の手術がない日の担当業務 (複数選択可)



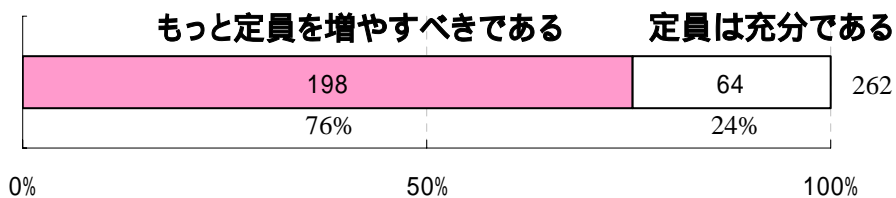
3. 臨床工学技士や体外循環技術者の現在の需給関係について

3-A 臨床工学技士

国全体の需要からみた場合

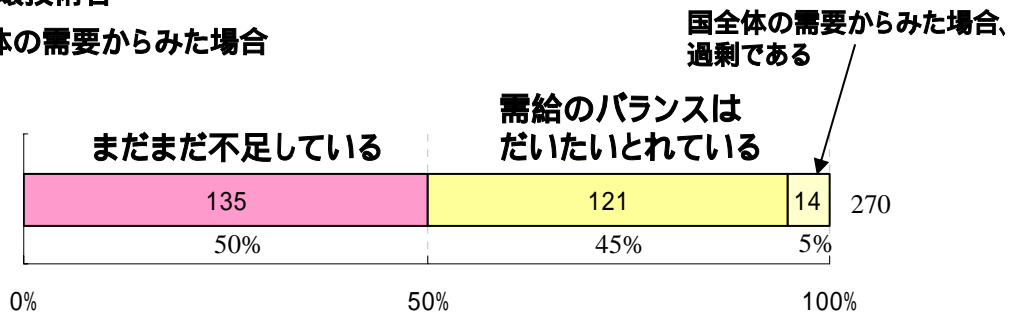


勤務先の仕事量の状況からして

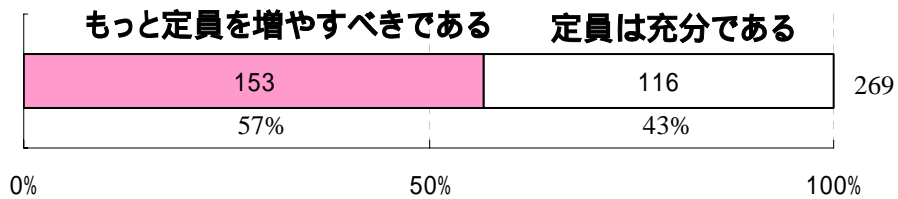


### 3-B 体外循環技術者

国全体の需要からみた場合

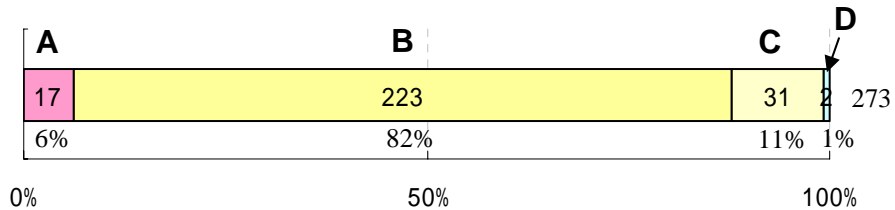


勤務先の仕事量の状況からして



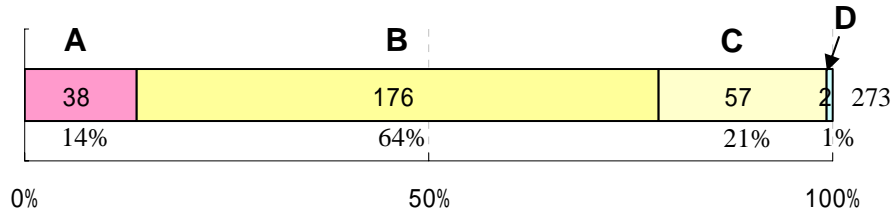
## 4. 裁量権拡大について

### 4-A 処遇との関係について



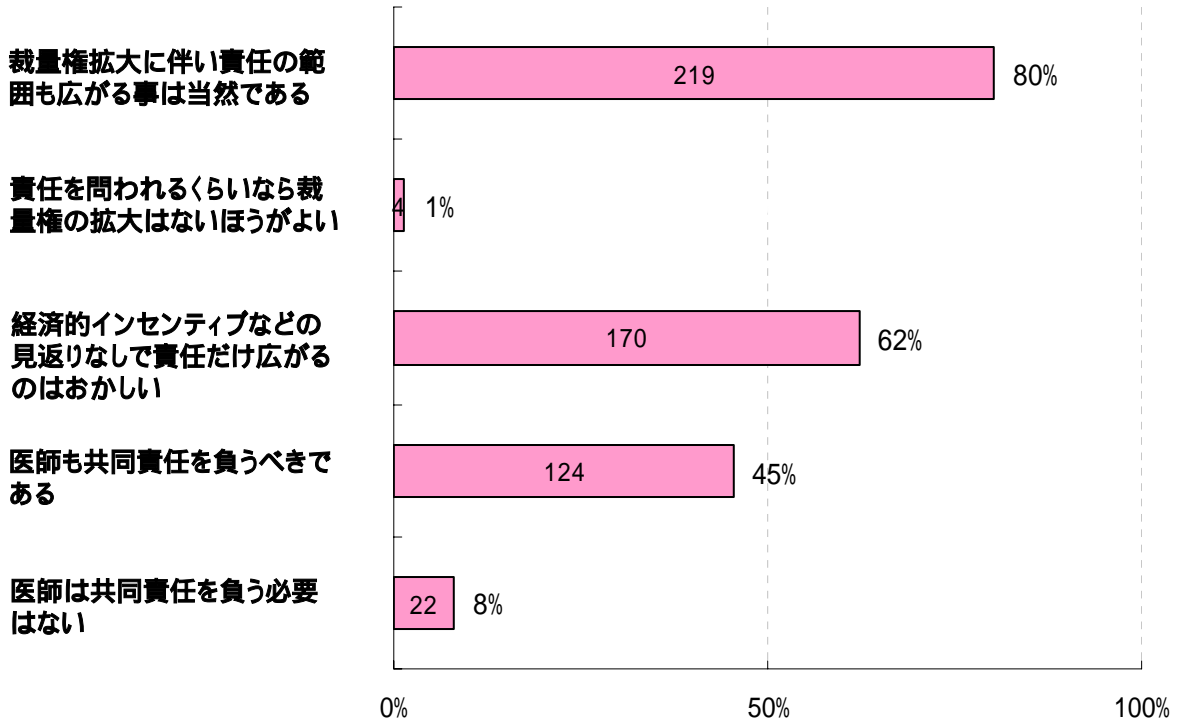
- A 給与が増えるなどの経済的インセンティブを伴うことが第一で、それが伴わないものには興味はない。
- B 給与が増えて、さらに、医師よりも安い労働力というのではなくそれに見合った社会評価を得られるようなステータスも必要である。
- C 自分の行える仕事の範囲が増えるのであれば、必ずしも経済的インセンティブは求めない。
- D インセンティブに関係なく自分の行える仕事の範囲が広がる事に興味はない。

4-B 業務の拡大や裁量権の拡大と、現在の皆様の就労環境の関係について

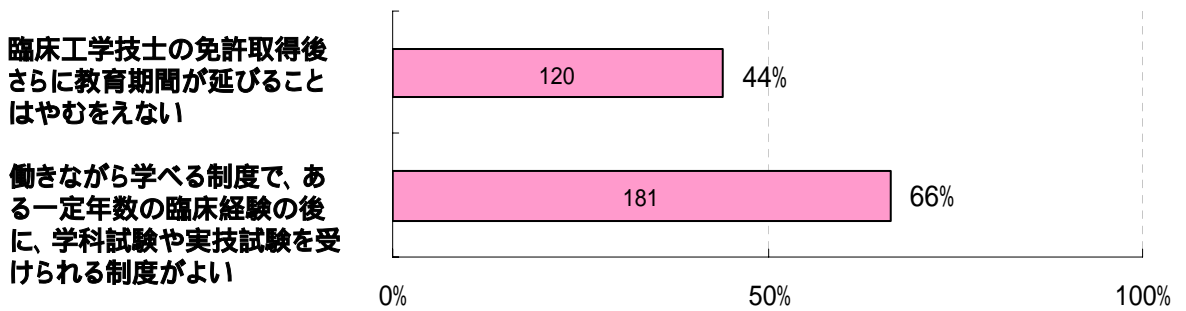


- A キャリアアップのモチベーションはあっても、現在の人手不足、就労環境からすると、その改善が先決であり、それが達成されてからこうした問題を考えるべきと考える。
- B 現在の人手不足、就労環境の改善と並行して、キャリアアップの道を模索する事は必ずしも悪い事ではない。
- C どちらの考えも一利あると思う。
- D どちらの考えも承服できない。

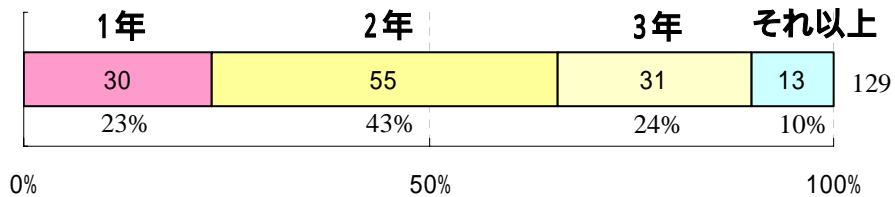
4-C 責任について (複数選択可)



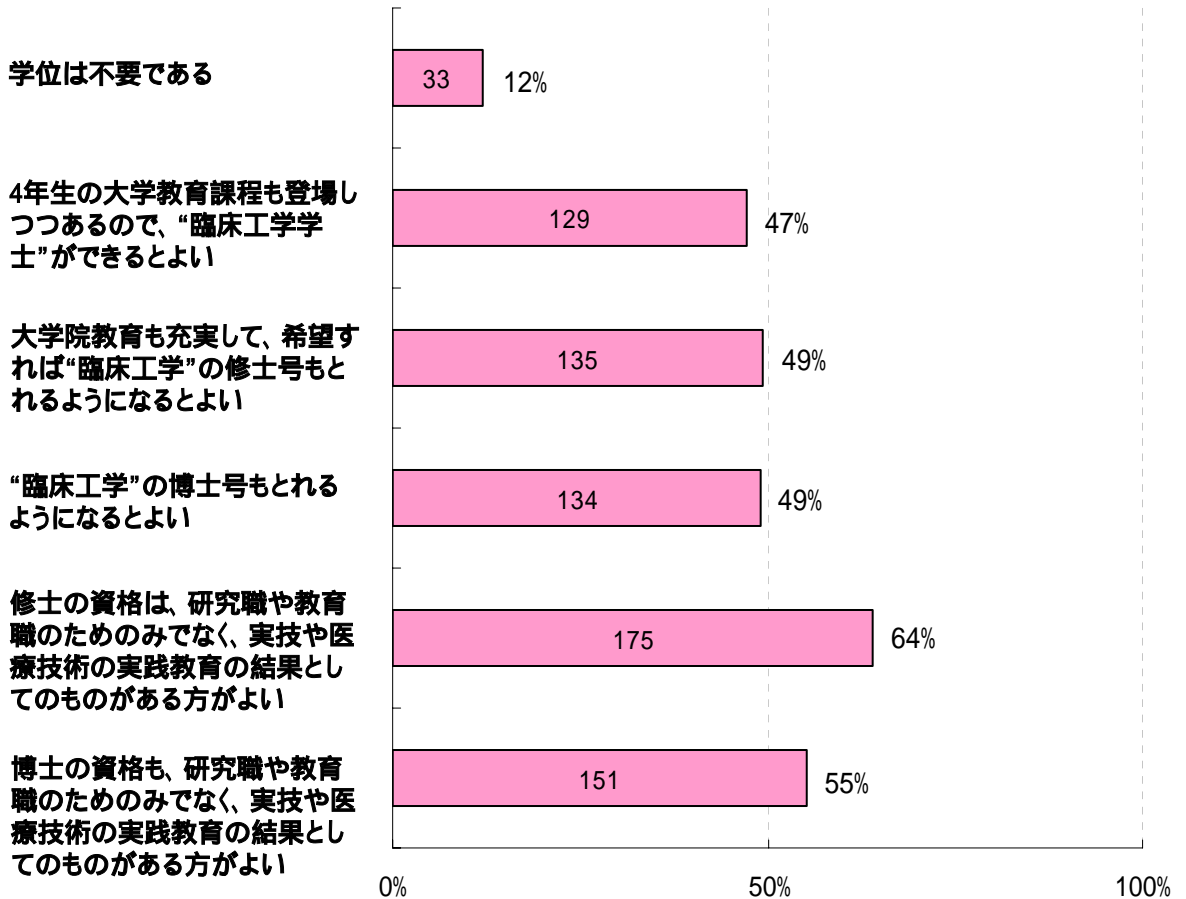
4-D 教育期間などについて (複数選択可)



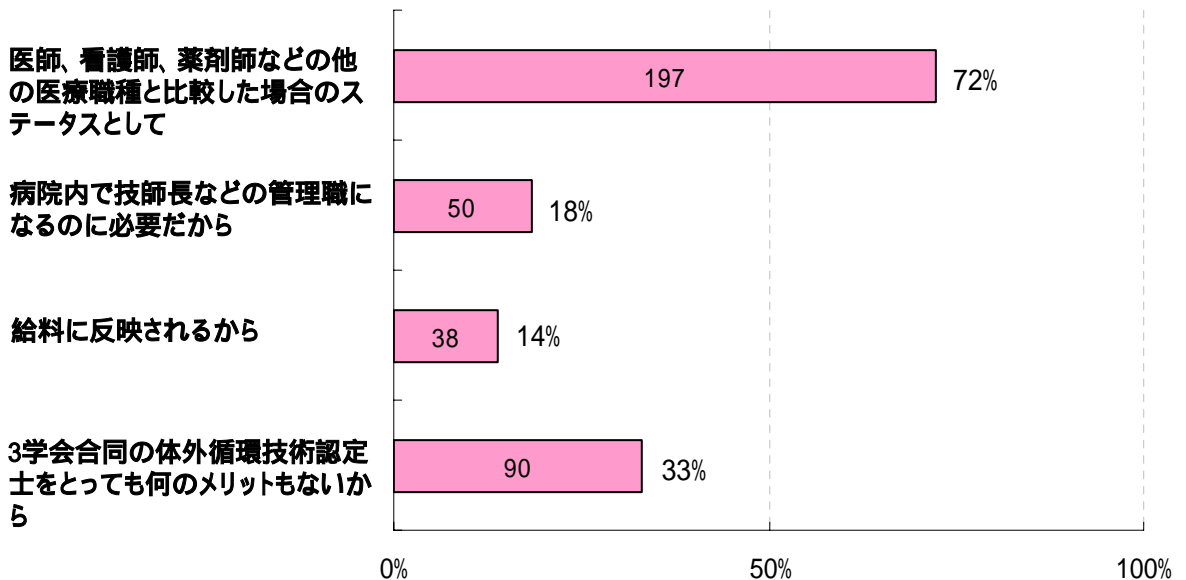
「臨床工学技士の免許取得後さらに教育期間が延びることはやむをえない」場合の教育期間



4-E 将来的な事項として、学位について (複数選択可)

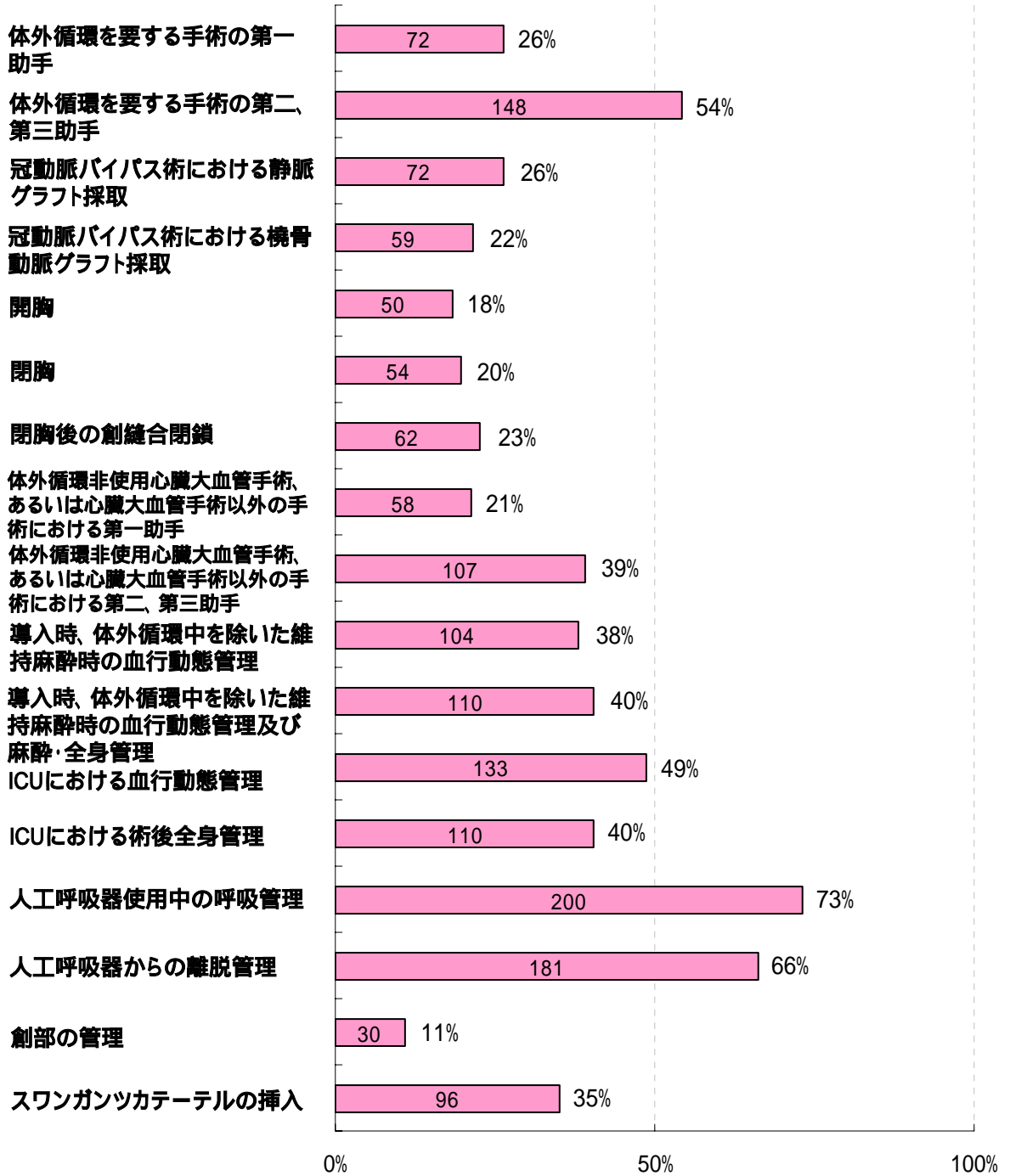


4-F 学位が必要と回答された方の理由 (複数選択可)



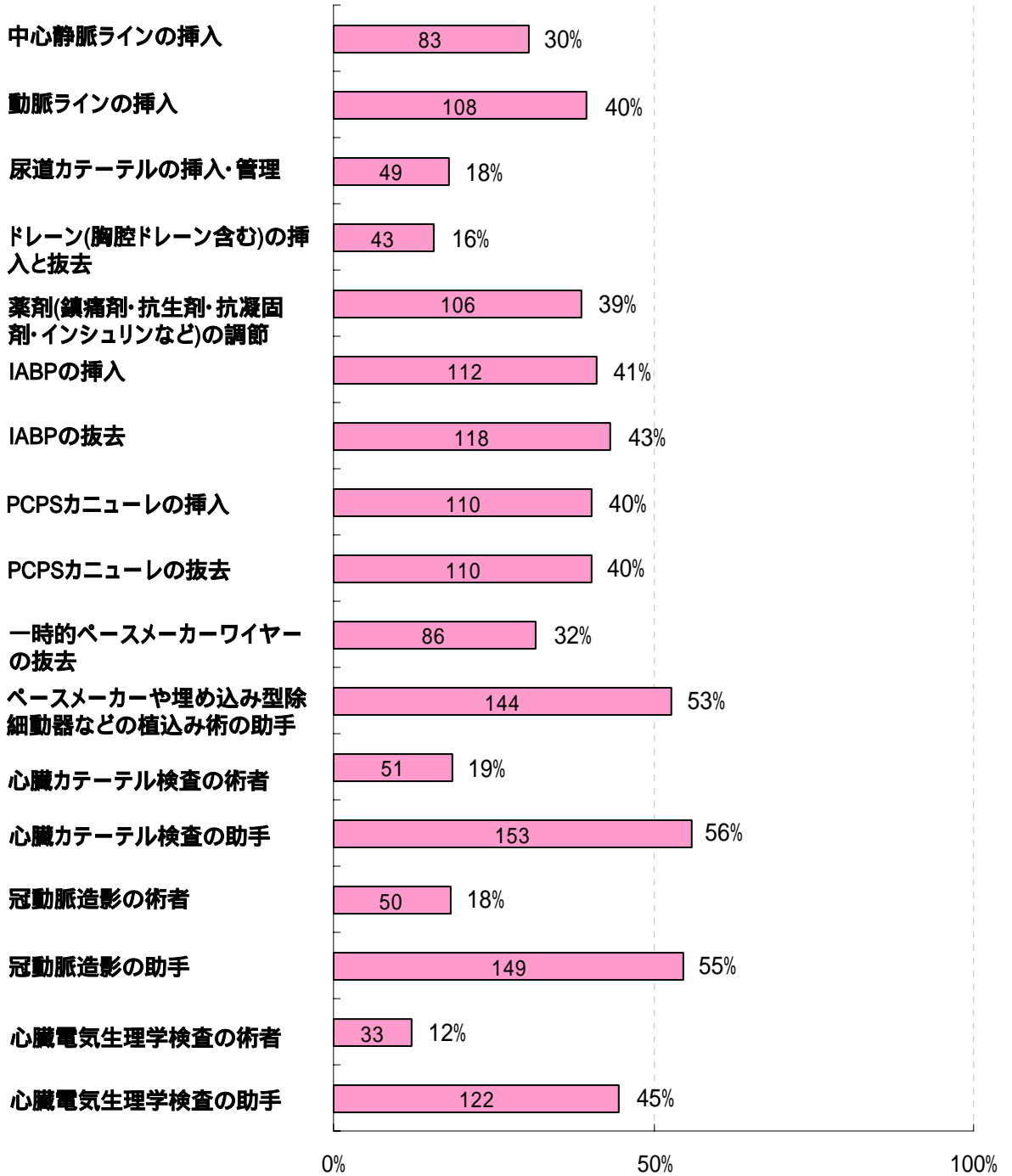
4-G 個々の医療行為について

(複数選択可)

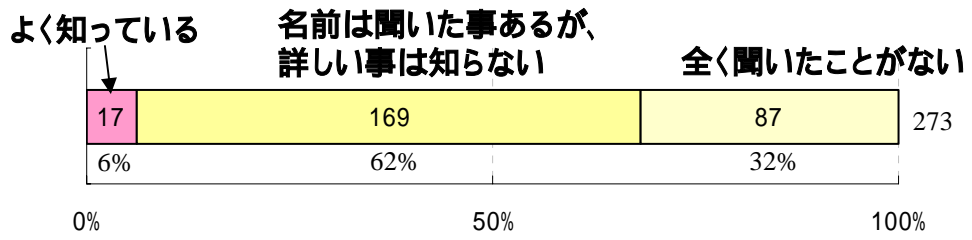


4-G 個々の医療行為について

(複数選択可)



#### 4-H 米国のPAやNPについて



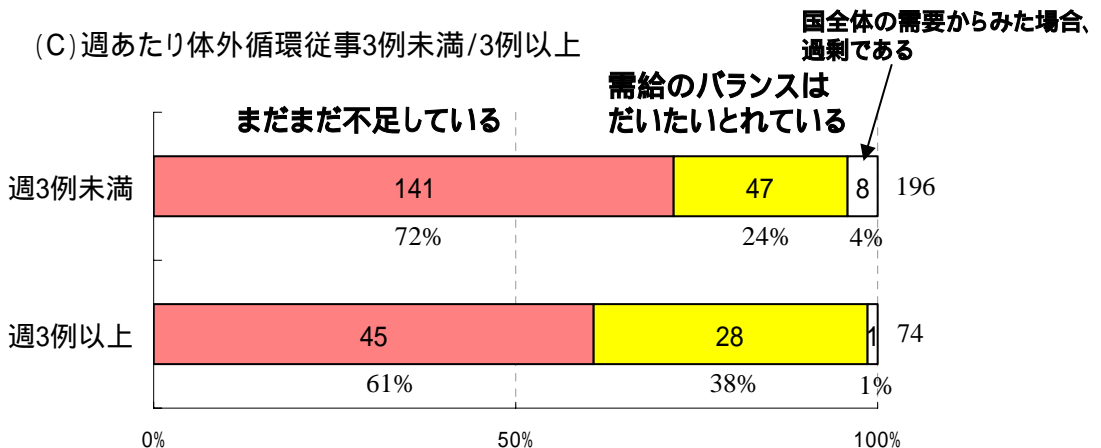
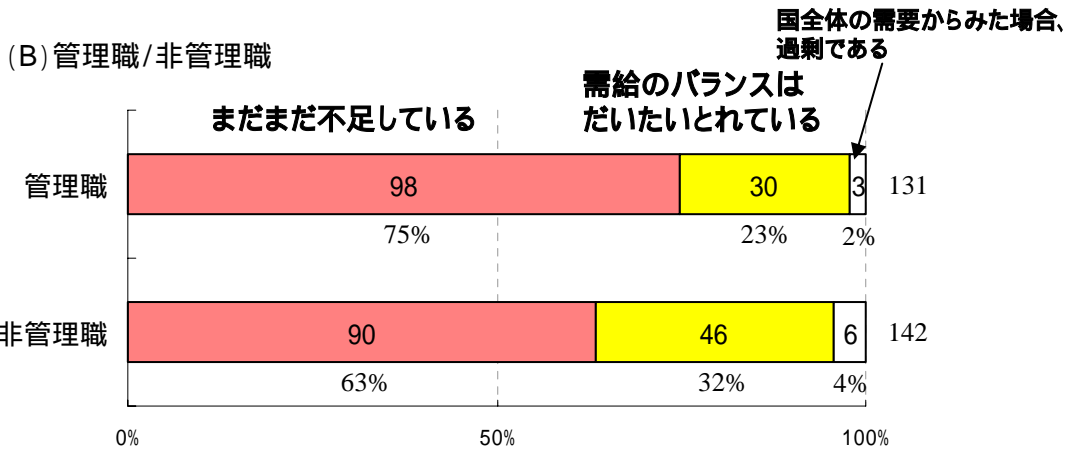
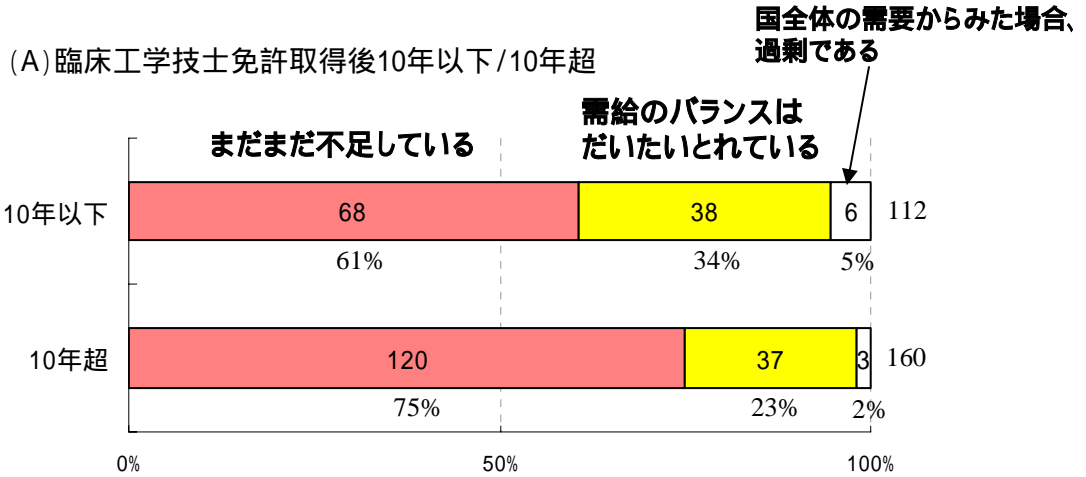
### 層別化集計

- (A) 臨床工学技士免許取得後10年以下/10年超
- (B) 管理職/非管理職
- (C) 週あたり体外循環従事3例未満/3例以上

### 3. 臨床工学技士や体外循環技術者の現在の需給関係について

#### 3-A 臨床工学技士

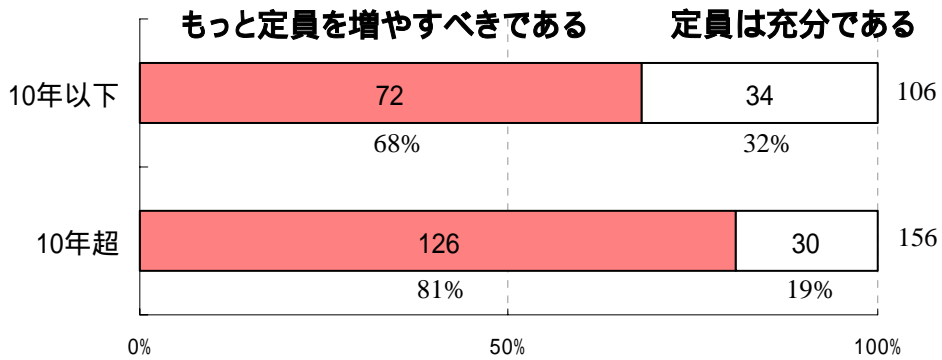
##### 国全体の需要からみた場合



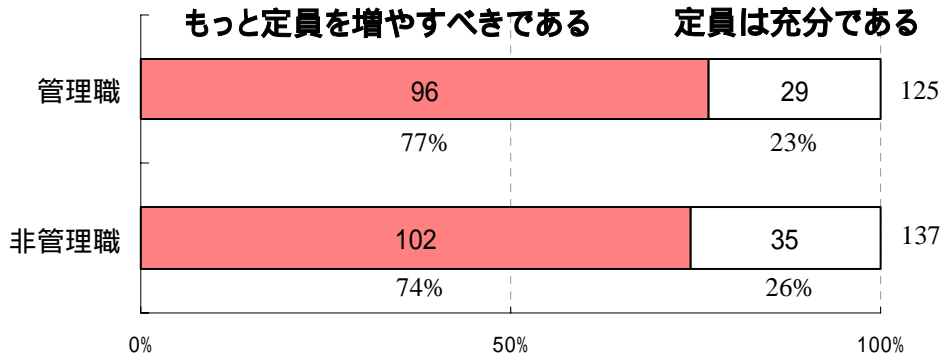
### 3-A 臨床工学技士

#### 勤務先の仕事量の状況からして

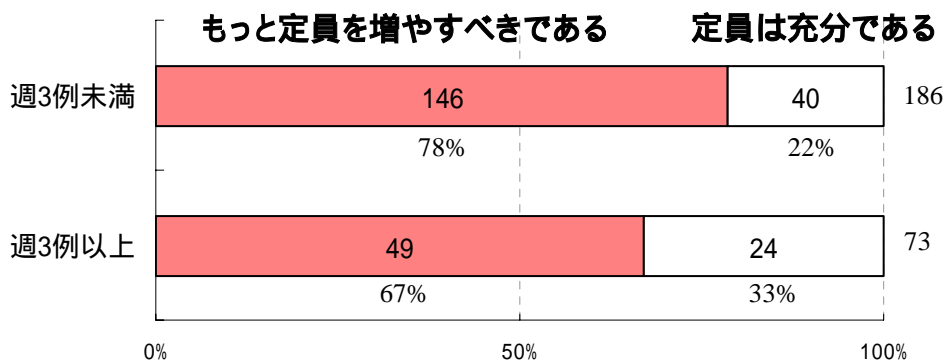
(A) 臨床工学技士免許取得後10年以下/10年超



(B) 管理職/非管理職



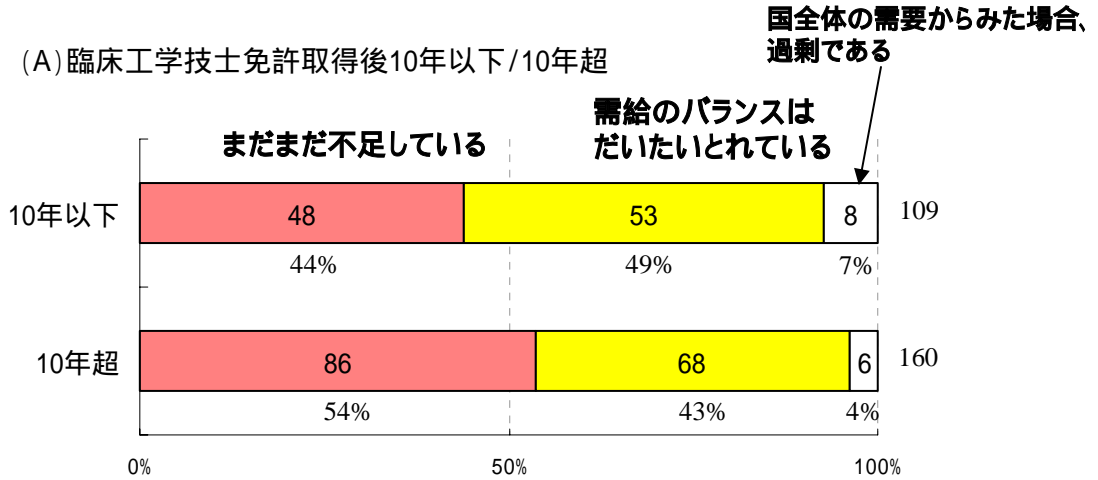
(C) 週あたり体外循環従事3例未満/3例以上



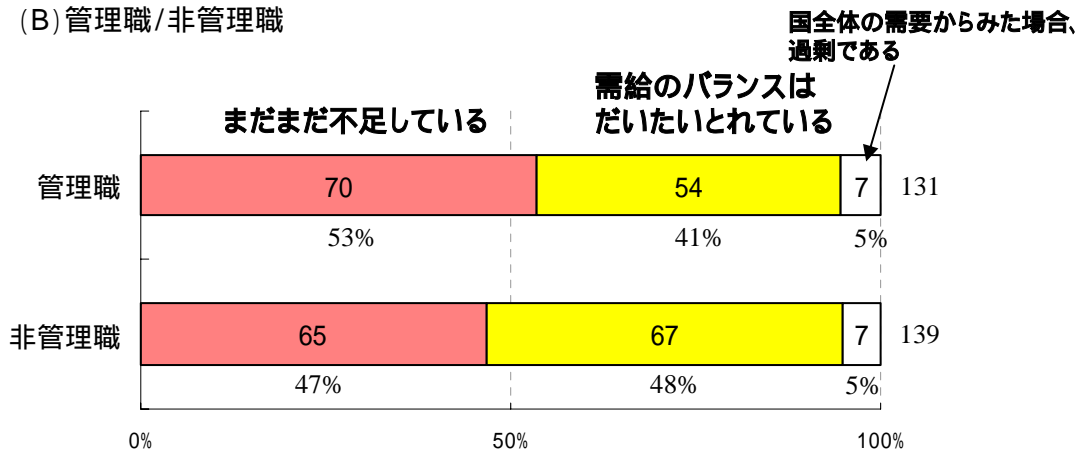
### 3-B 体外循環技術者

#### 国全体の需要からみた場合

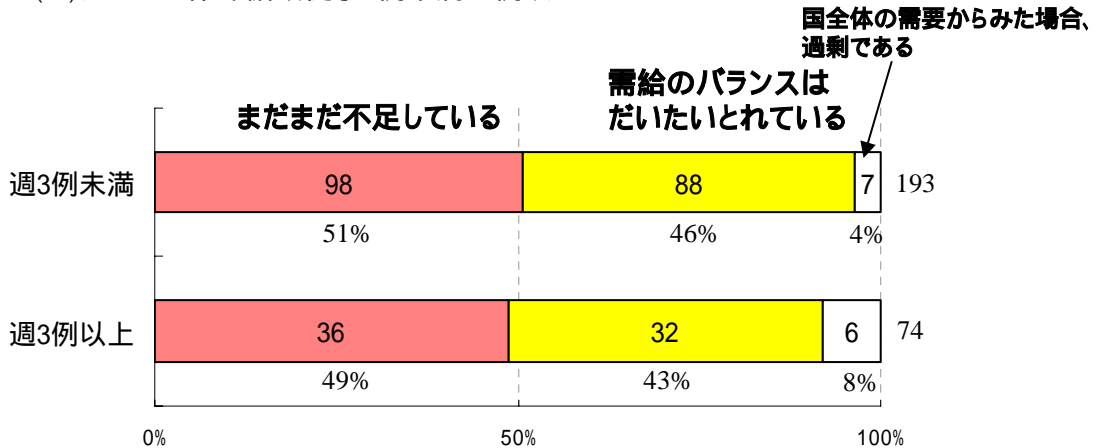
(A) 臨床工学技士免許取得後10年以下/10年超



(B) 管理職/非管理職



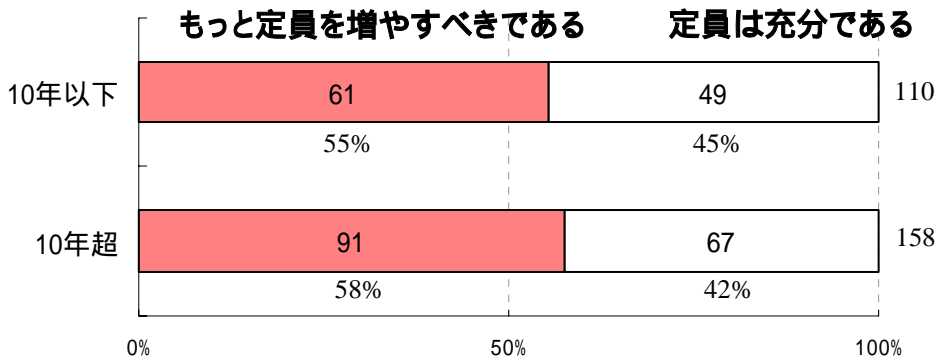
(C) 週あたり体外循環従事3例未満/3例以上



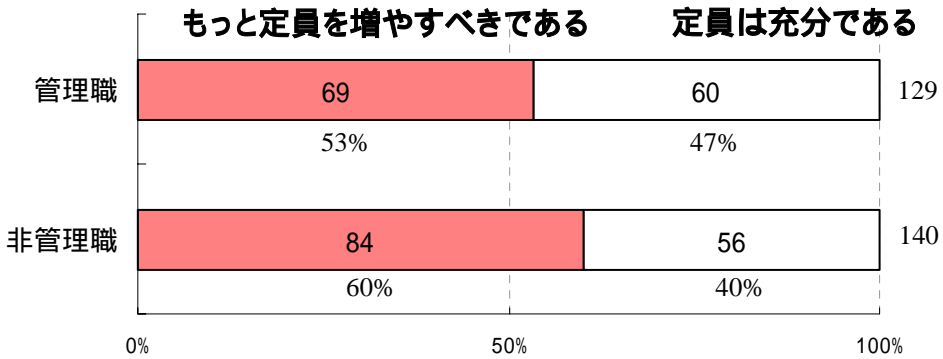
### 3-B 体外循環技術者

#### 勤務先の仕事量の状況からして

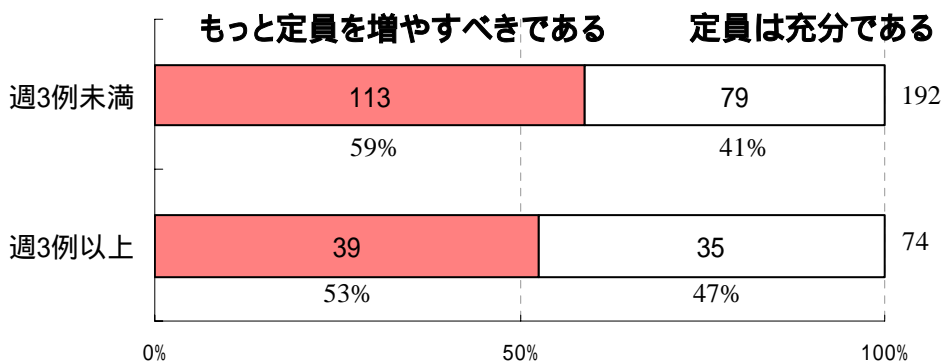
(A) 臨床工学技士免許取得後10年以下/10年超



(B) 管理職/非管理職



(C) 週あたり体外循環従事3例未満/3例以上

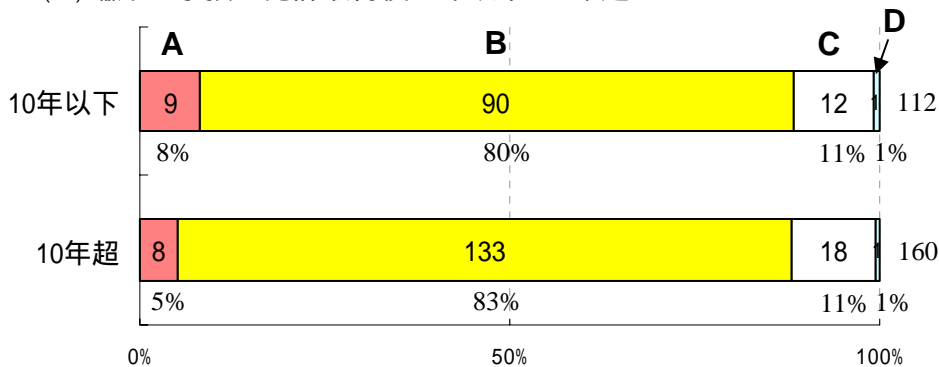


### 4. 裁量権拡大について

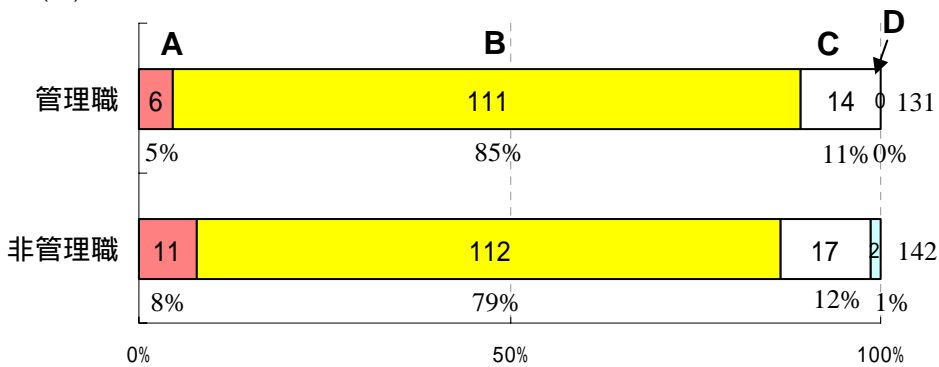
#### 4-A 処遇との関係について

- A 給与が増えるなどの経済的インセンティブを伴うことが第一で、それが伴わないものには興味はない。
- B 給与が増えて、さらに、医師よりも安い労働力というのではなくそれに見合った社会評価を得られるようなステータスも必要である。
- C 自分の行える仕事の範囲が増えるのであれば、必ずしも経済的インセンティブは求めない。
- D インセンティブに関係なく自分の行える仕事の範囲が広がる事に興味はない。

(A) 臨床工学技士免許取得後10年以下/10年超



(B) 管理職/非管理職



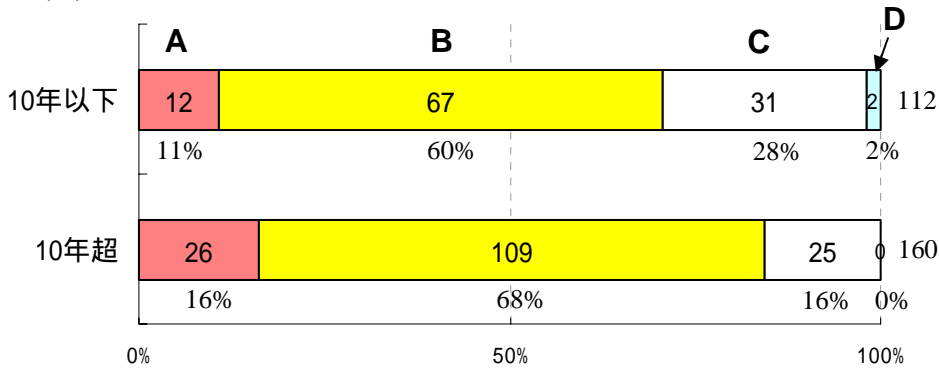
(C) 週あたり体外循環従事3例未満/3例以上



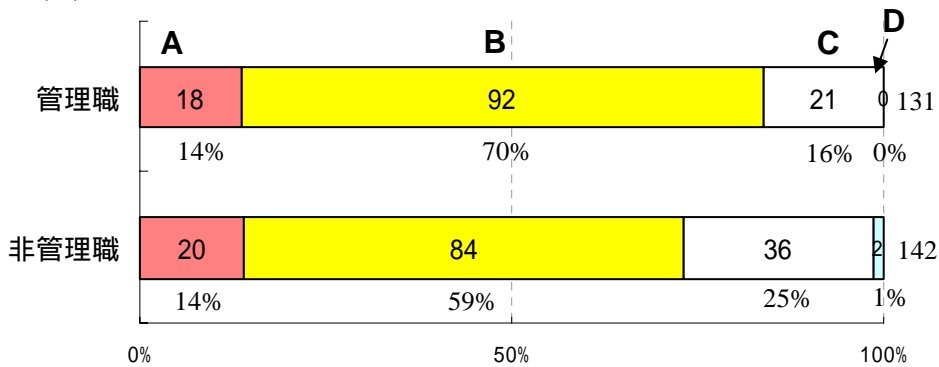
4-B 業務の拡大や裁量権の拡大と、現在の皆様の就労環境の関係について

- A キャリアアップのモチベーションはあっても、現在の人手不足、就労環境からすると、その改善が先決であり、それが達成されてからこうした問題を考えるべきと考える。
- B 現在の人手不足、就労環境の改善と並行して、キャリアアップの道を模索する事は必ずしも悪い事ではない。
- C どちらの考えも一利あると思う。
- D どちらの考えも承服できない。

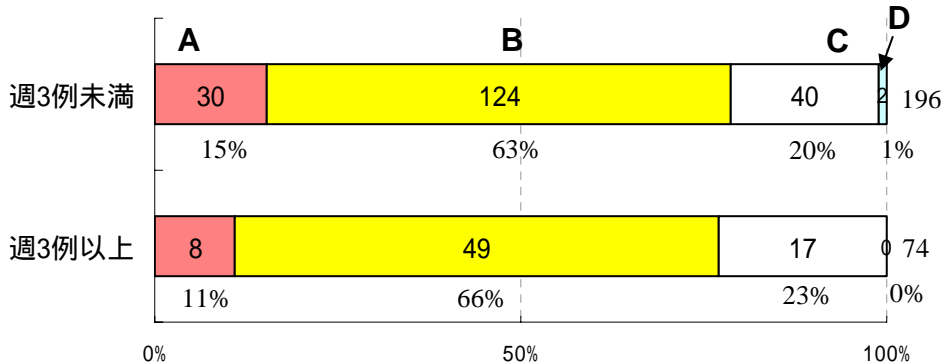
(A) 臨床工学技士免許取得後10年以下/10年超



(B) 管理職/非管理職

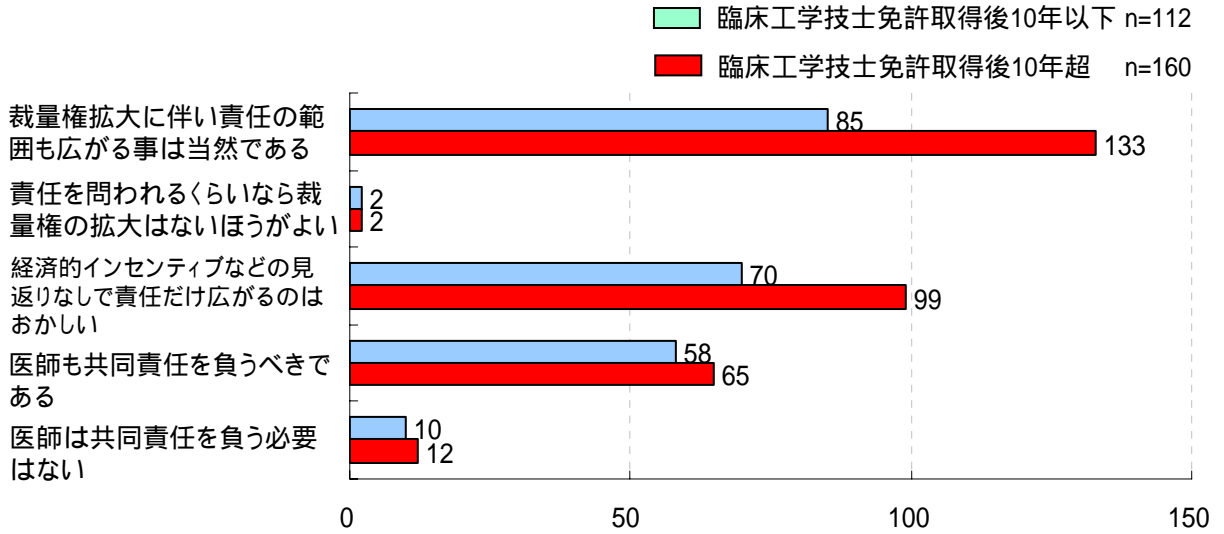


(C) 週あたり体外循環従事3例未満/3例以上

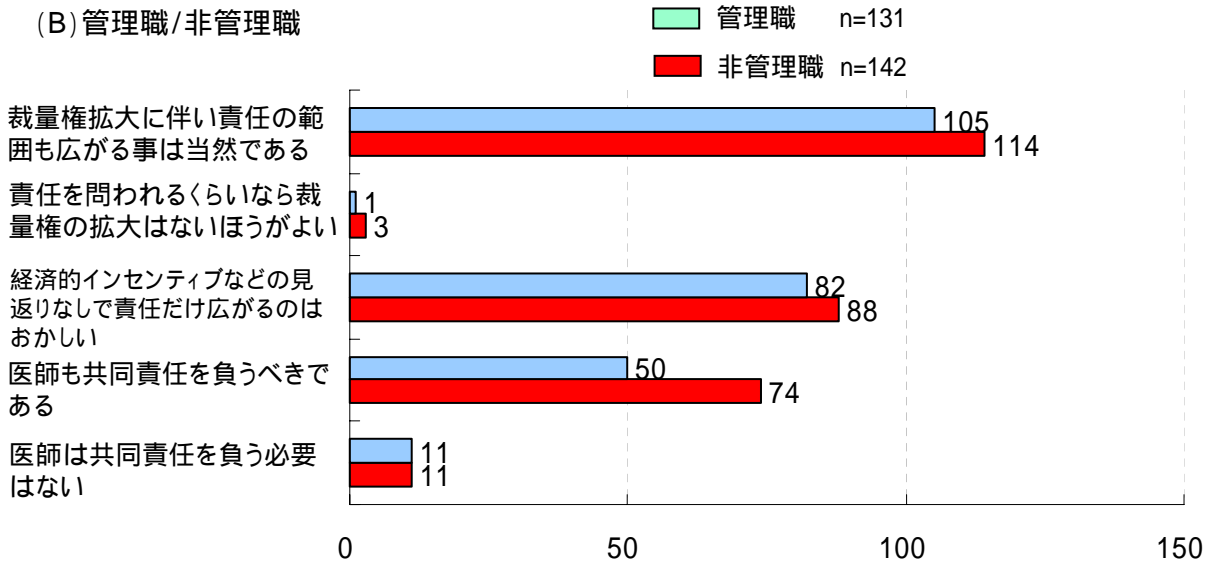


4-C 責任について (複数選択可)

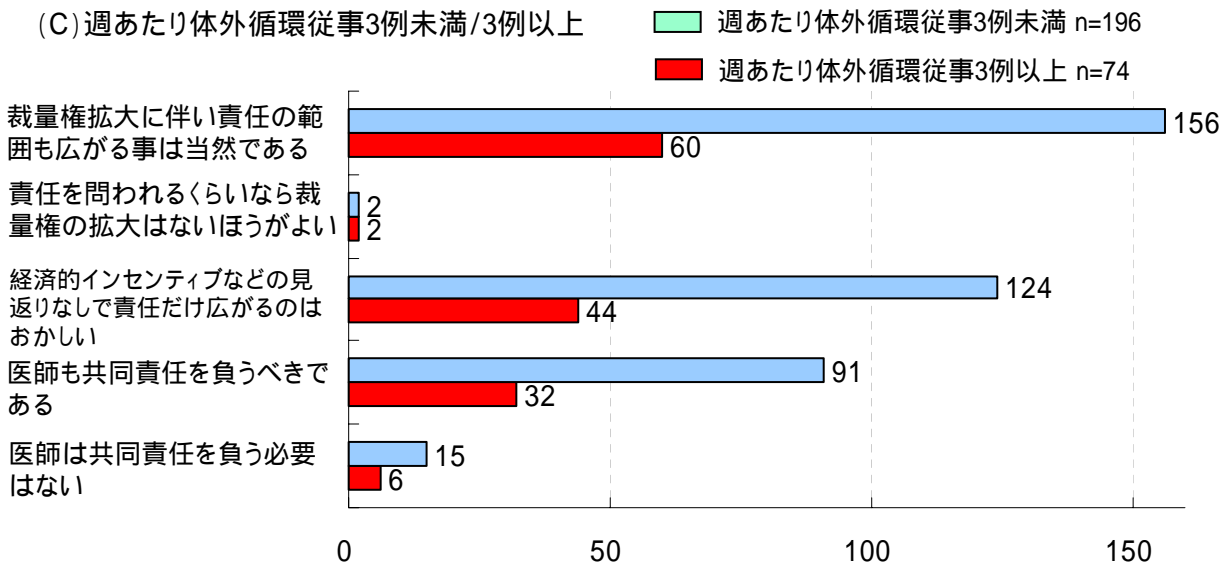
(A) 臨床工学技士免許取得後10年以下/10年超



(B) 管理職/非管理職

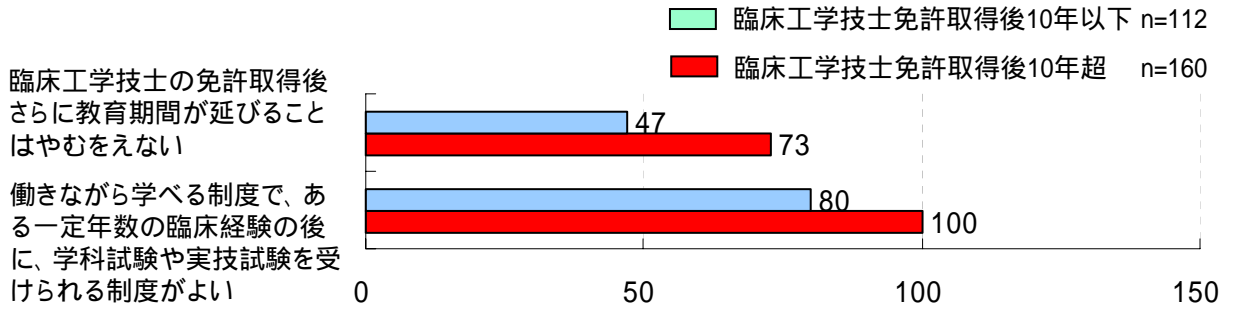


(C) 週あたり体外循環従事3例未満/3例以上

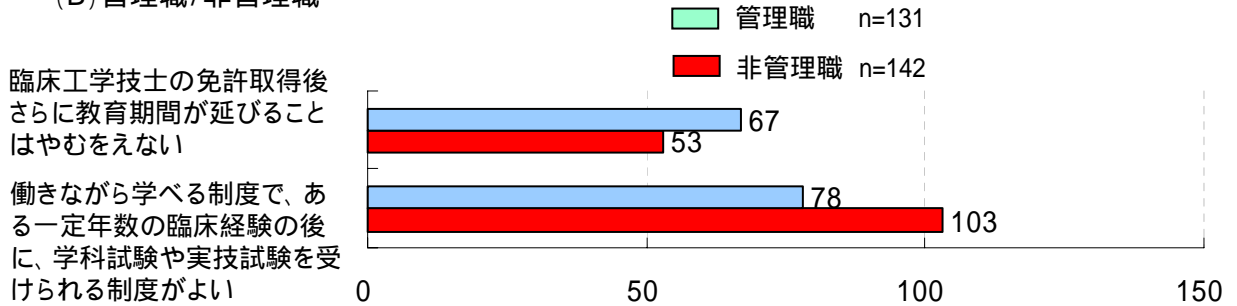


4-D 教育期間などについて (複数選択可)

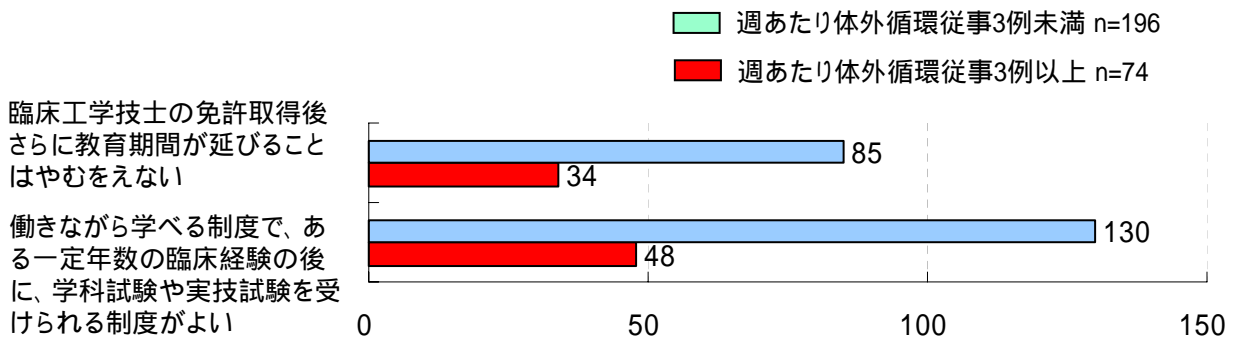
(A) 臨床工学技士免許取得後10年以下/10年超



(B) 管理職/非管理職

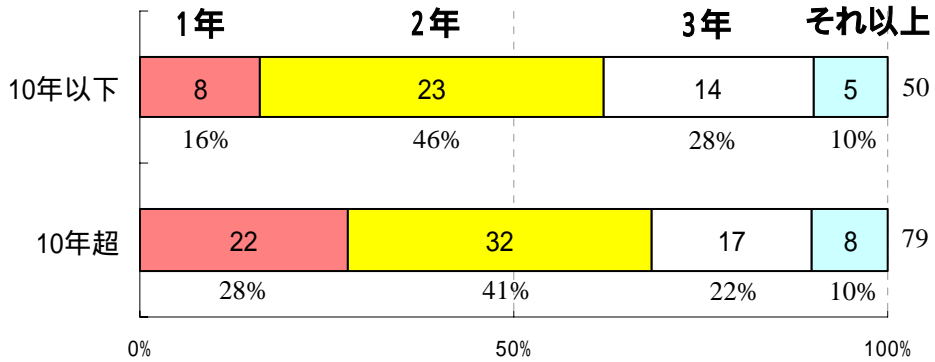


(C) 週あたり体外循環従事3例未満/3例以上

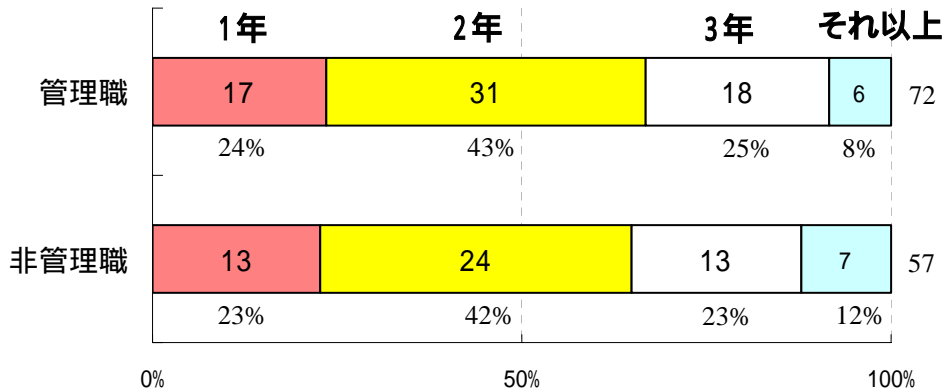


「臨床工学技士の免許取得後さらに教育期間が延びることはやむをえない」場合の教育期間

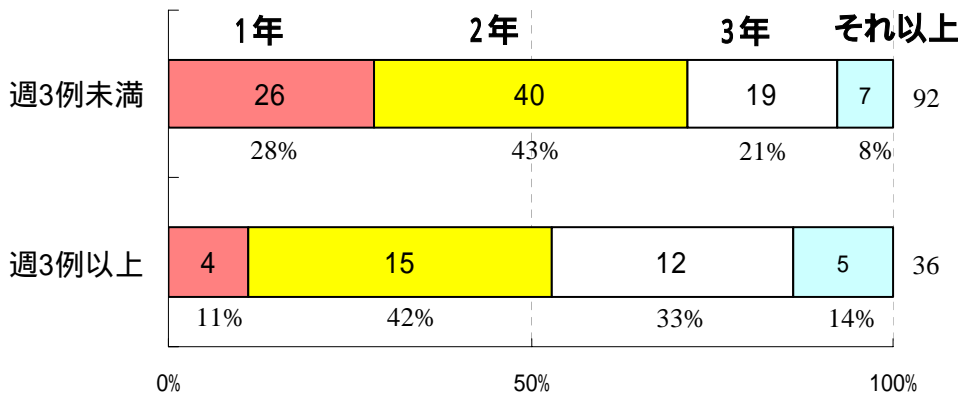
(A) 臨床工学技士免許取得後10年以下/10年超



(B) 管理職/非管理職

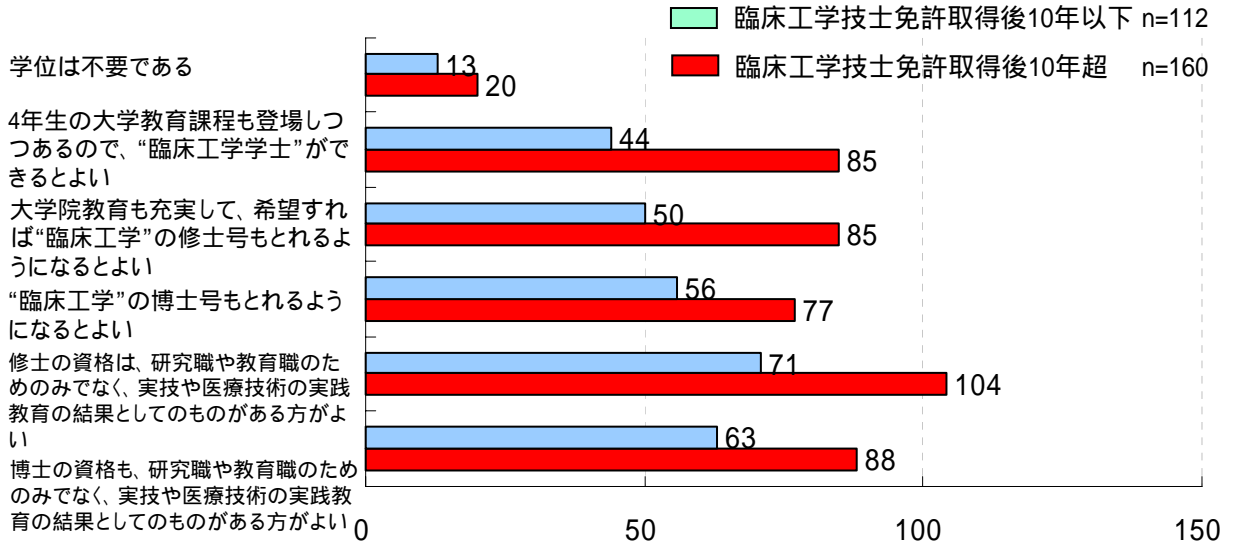


(C) 週あたり体外循環従事3例未満/3例以上

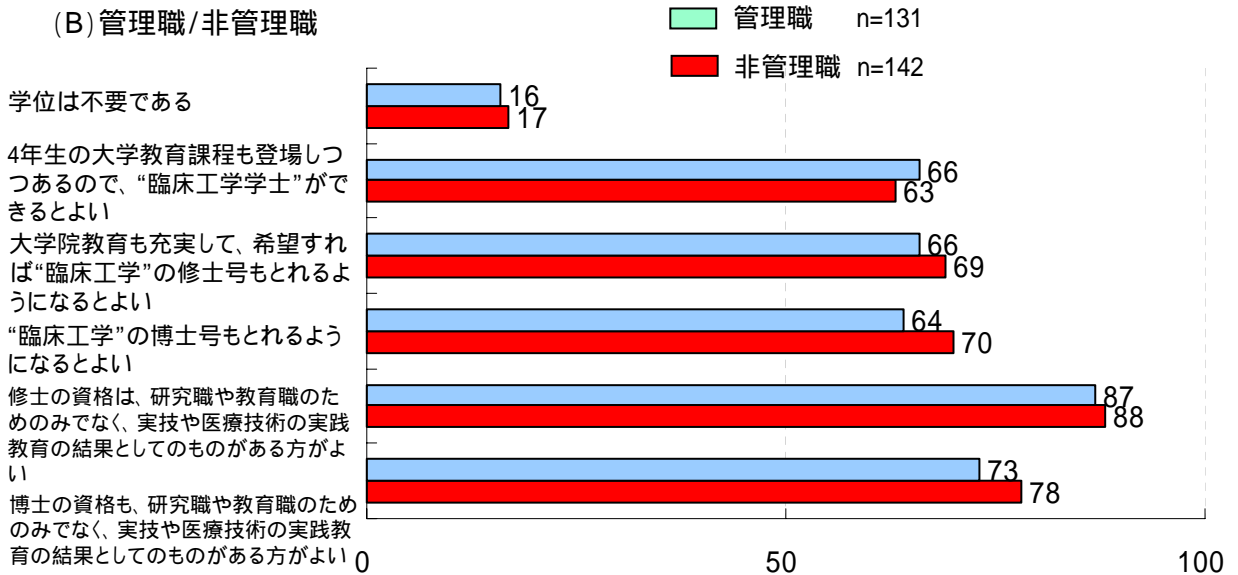


4-E 将来的な事項として、学位について (複数選択可)

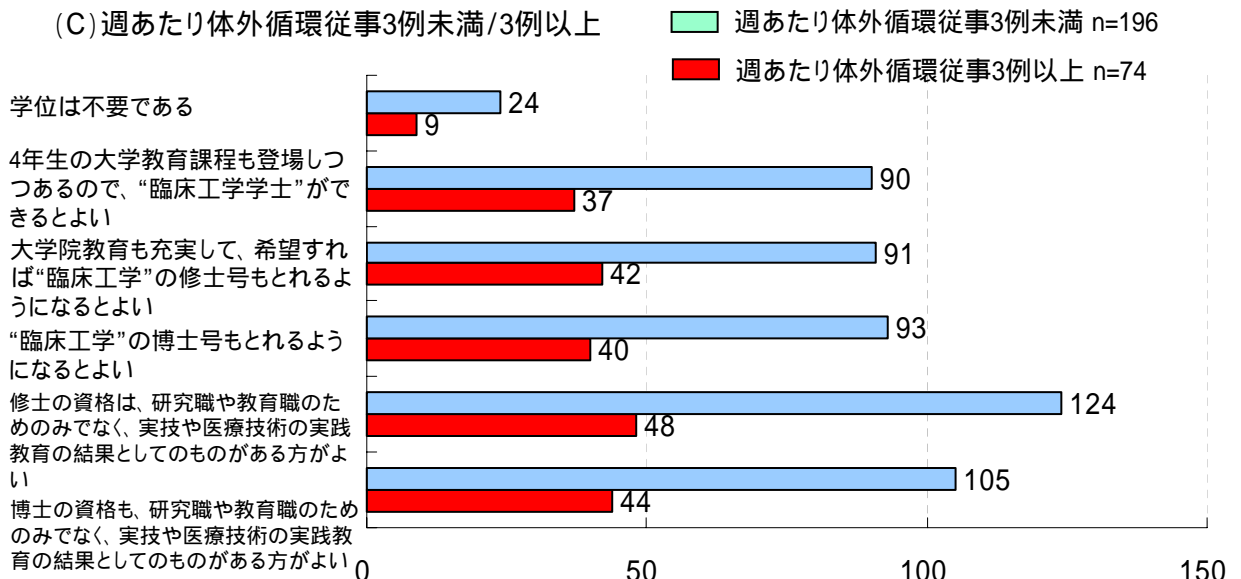
(A) 臨床工学技士免許取得後10年以下/10年超



(B) 管理職/非管理職

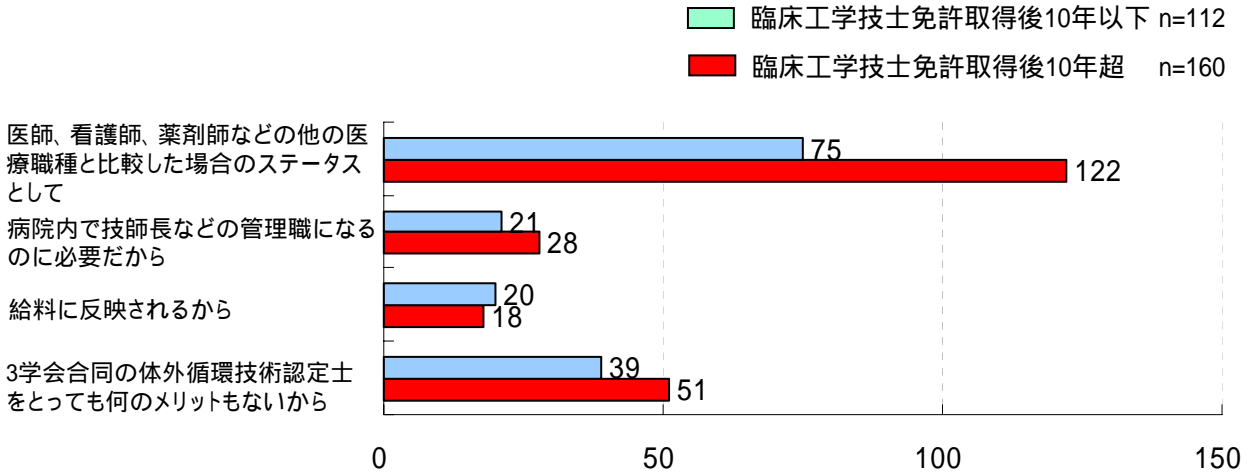


(C) 週あたり体外循環従事3例未満/3例以上

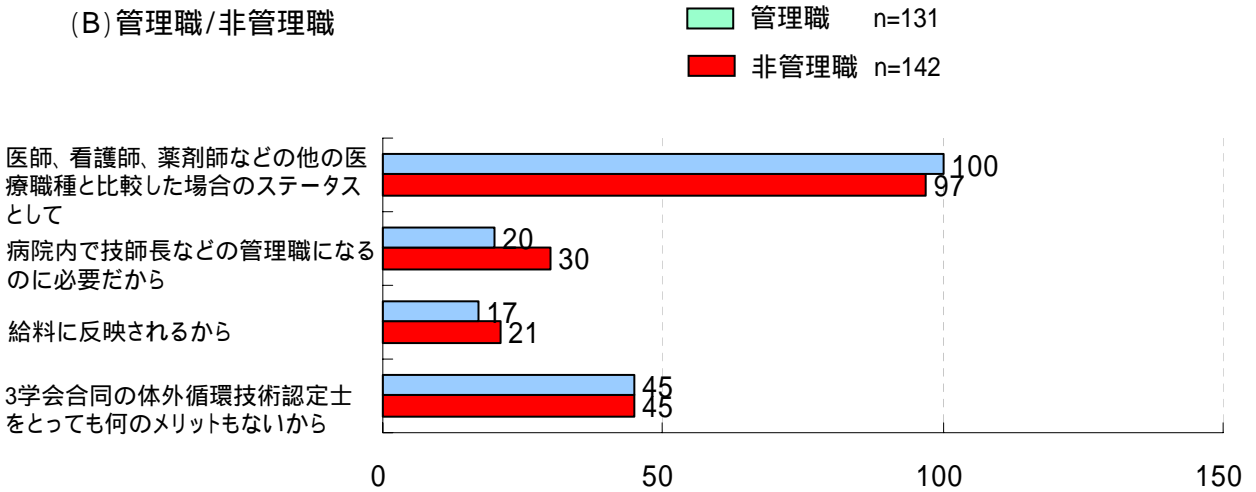


4-F 学位が必要と回答された方の理由 (複数選択可)

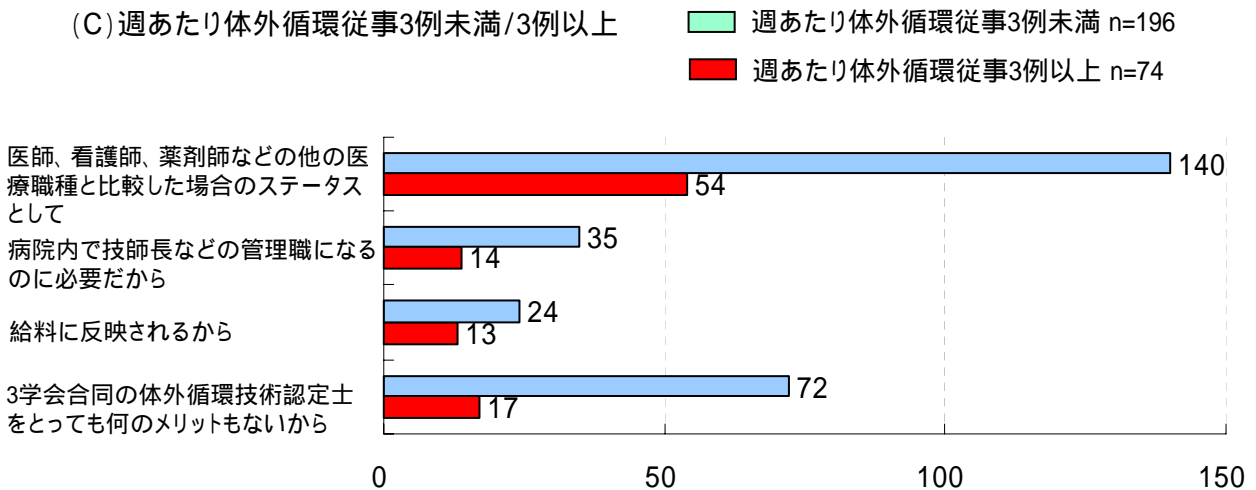
(A) 臨床工学技士免許取得後10年以下/10年超



(B) 管理職/非管理職



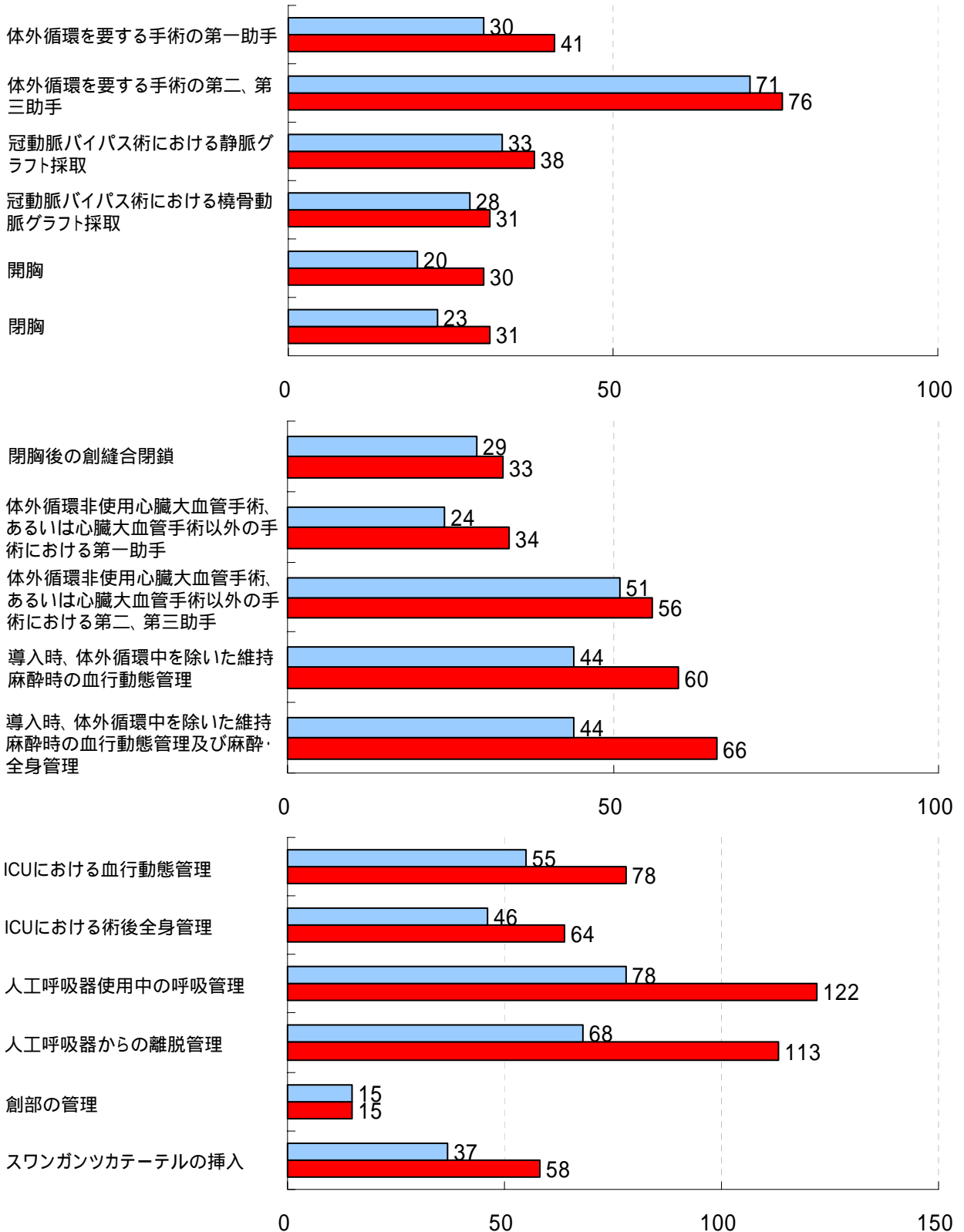
(C) 週あたり体外循環従事3例未満/3例以上



4-G 個々の医療行為について (複数選択可)

(A) 臨床工学技士免許取得後10年以下/10年超

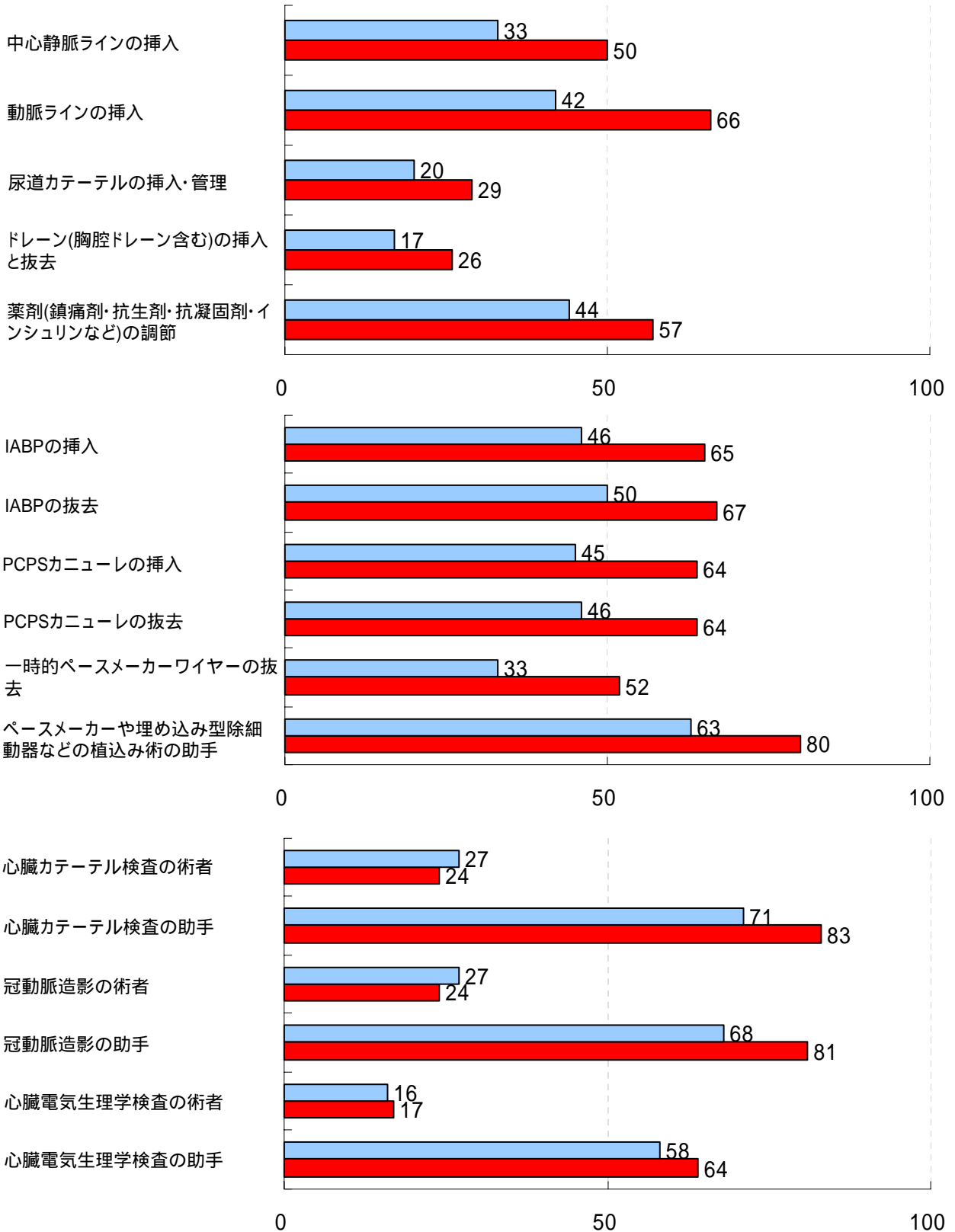
■ 臨床工学技士免許取得後10年以下 n=112  
 ■ 臨床工学技士免許取得後10年超 n=160



4-G 個々の医療行為について (複数選択可)

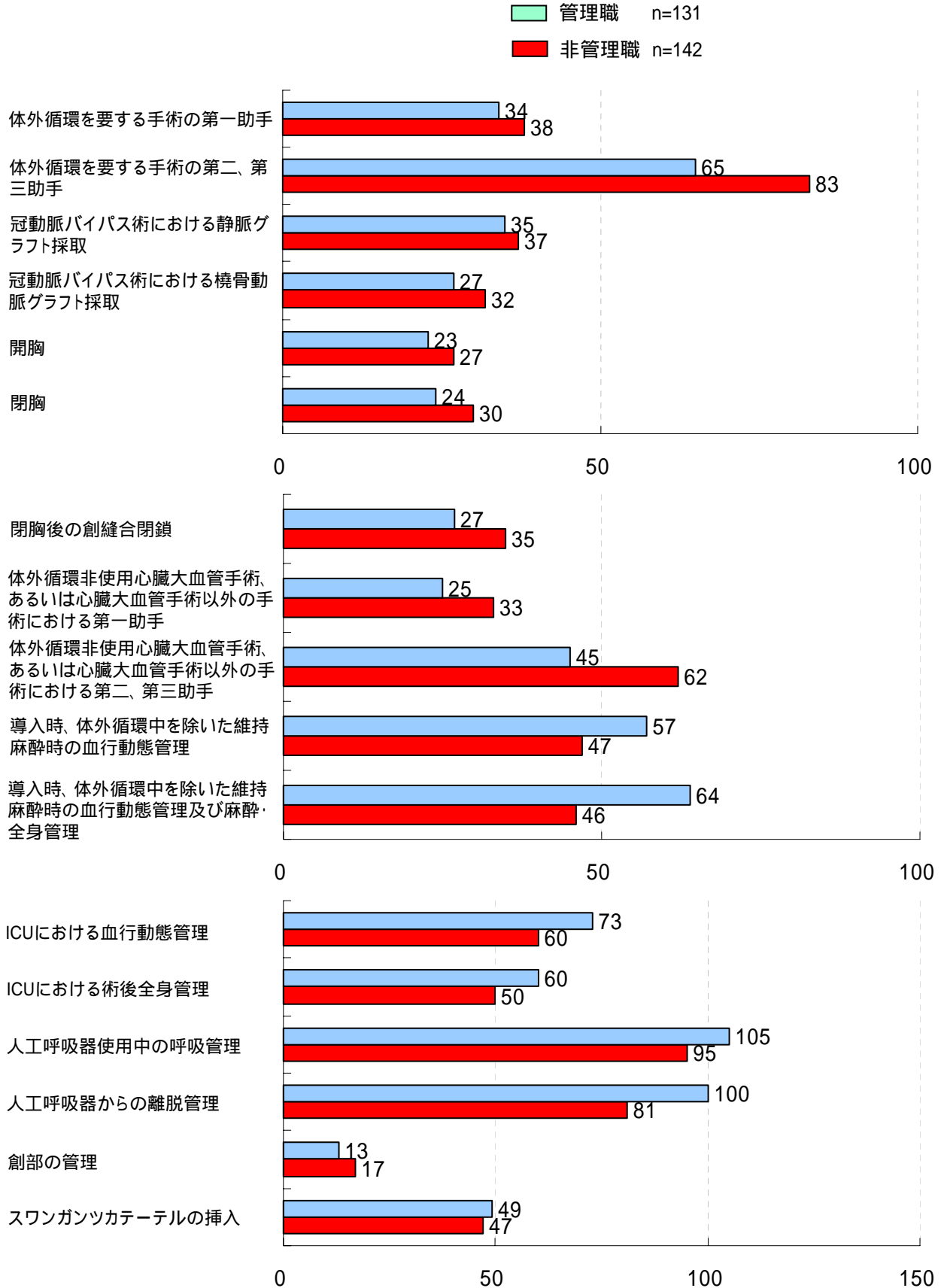
(A) 臨床工学技士免許取得後10年以下/10年超

■ 臨床工学技士免許取得後10年以下 n=112  
■ 臨床工学技士免許取得後10年超 n=160



4-G 個々の医療行為について (複数選択可)

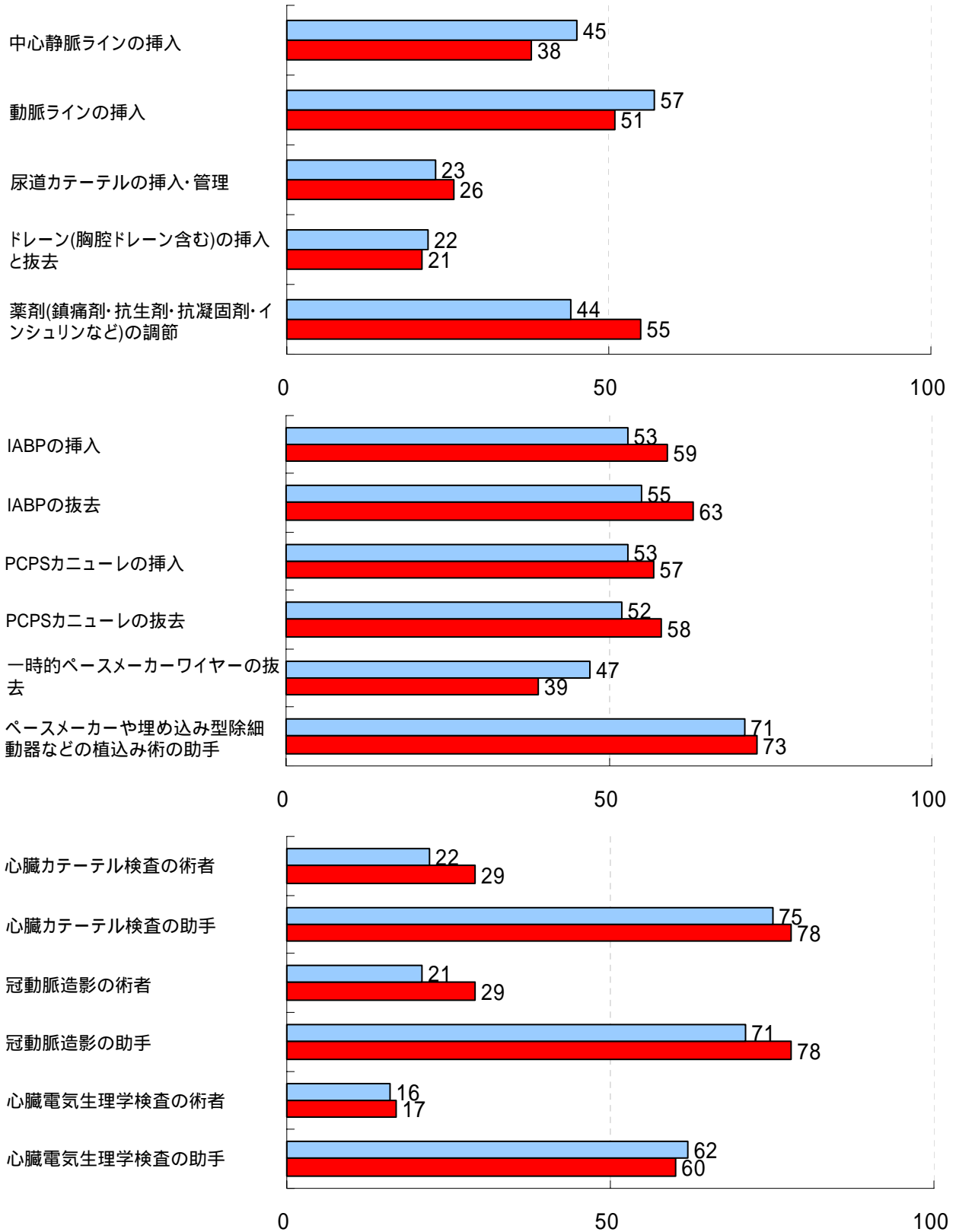
(B) 管理職/非管理職



4-G 個々の医療行為について (複数選択可)

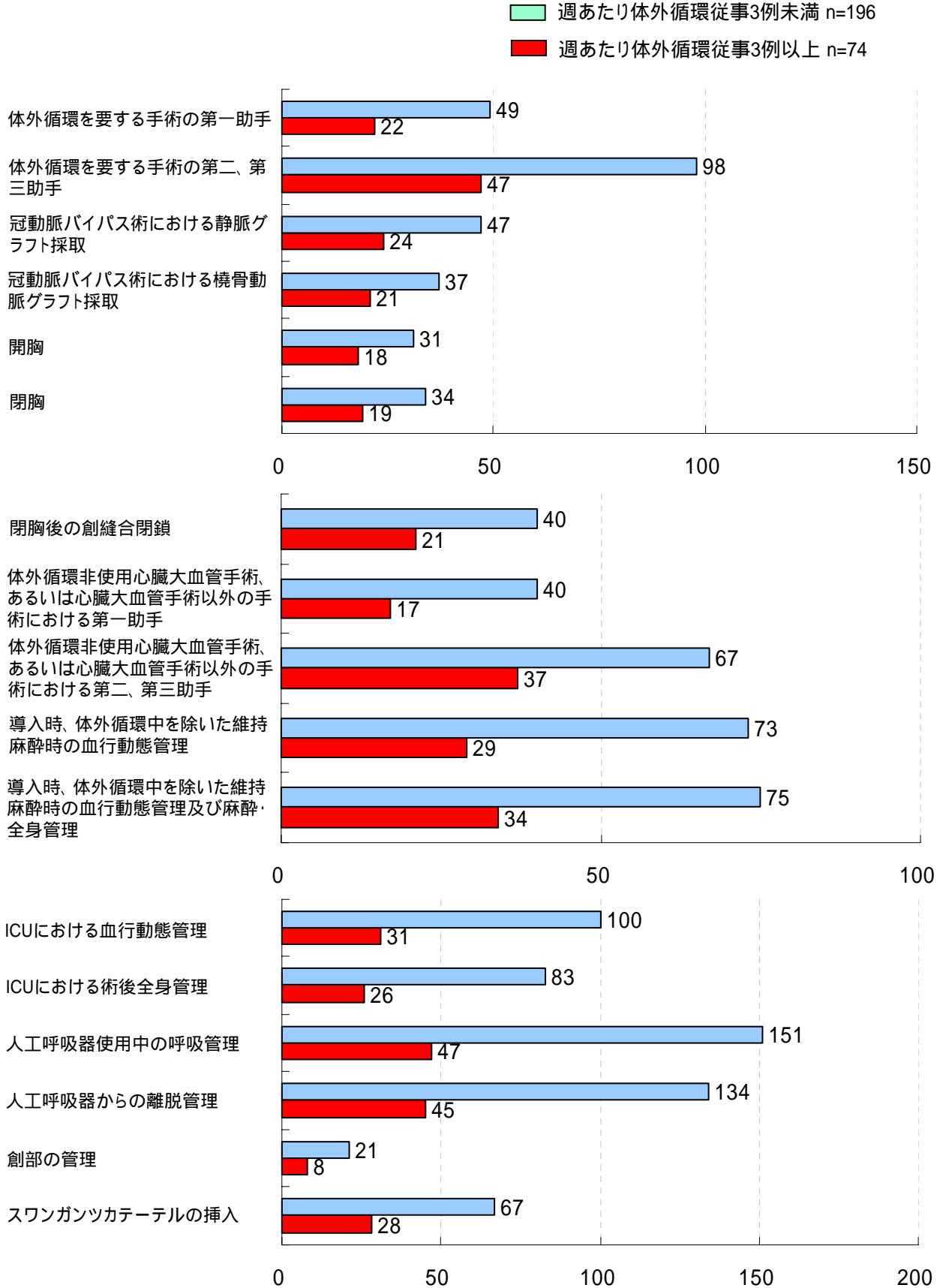
(B) 管理職/非管理職

管理職 n=131  
非管理職 n=142



4-G 個々の医療行為について (複数選択可)

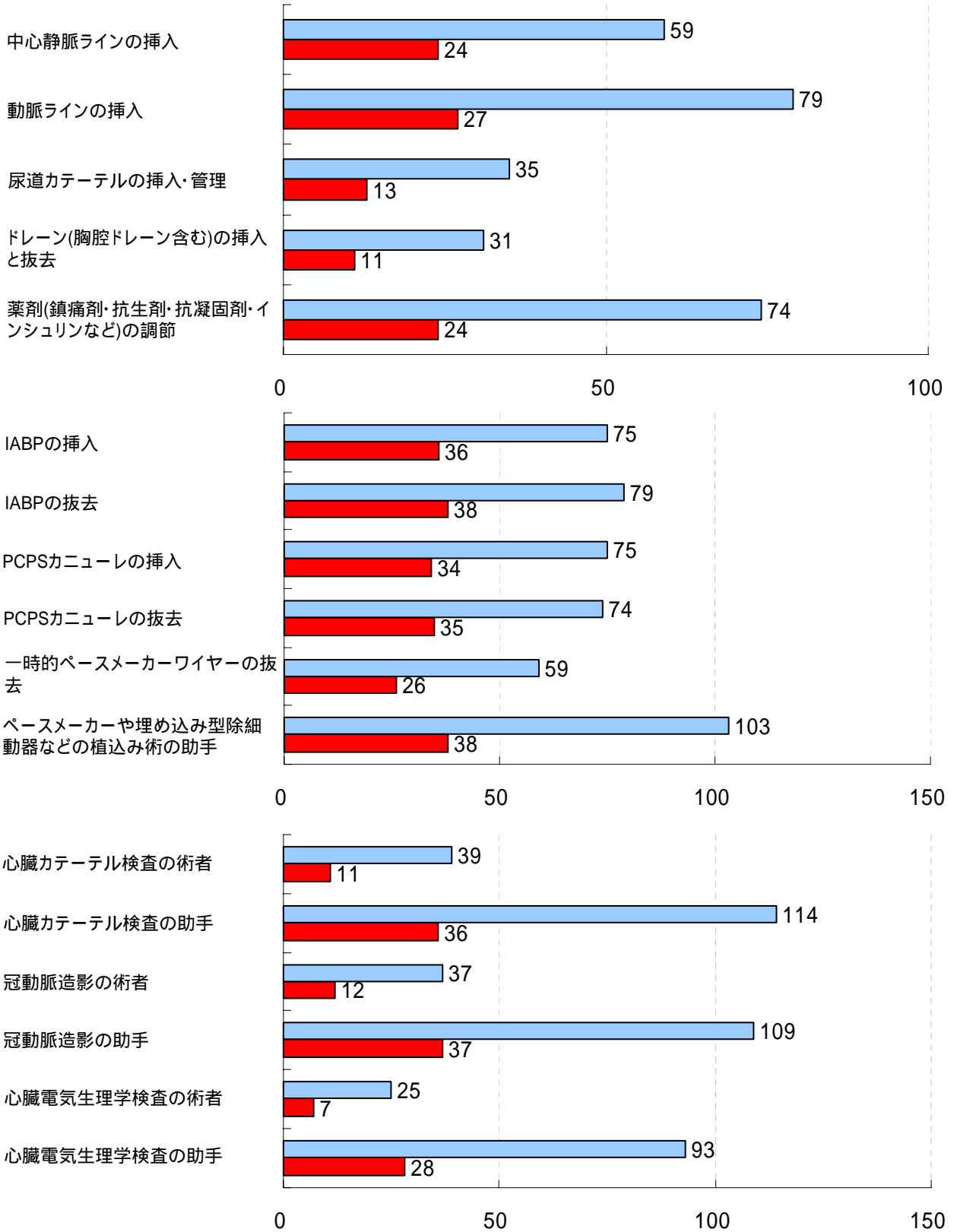
(C) 週あたり体外循環従事3例未満/3例以上



4-G 個々の医療行為について (複数選択可)

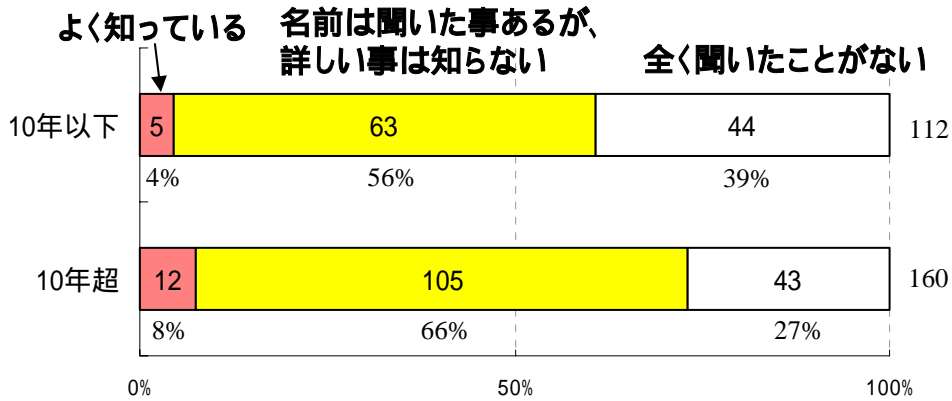
(C) 週あたり体外循環従事3例未満/3例以上

■ 週あたり体外循環従事3例未満 n=196  
 ■ 週あたり体外循環従事3例以上 n=74

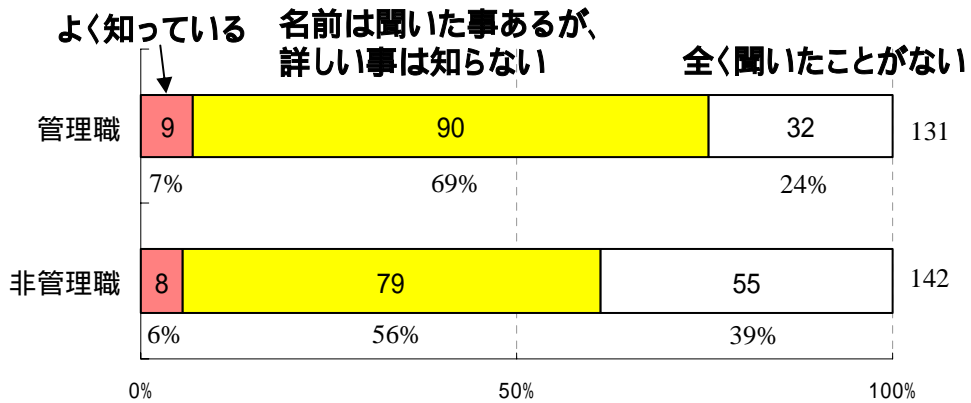


4-H 米国のPAやNPについて

(A) 臨床工学技士免許取得後10年以下/10年超



(B) 管理職/非管理職



(C) 週あたり体外循環従事3例未満/3例以上

